ハンドボール 「第25号目次」

昭和40年8月号

〔表紙写真〕
全国高校選手権大会男子の試合から
（熊本日日新聞提供）

私の言葉

福岡、熊本両県に追いつけ

中尾節次
（大分県協会長）

大分県ハンドボール協会を設立して早や三年、現在いろいろの問題を抱えている。ことし8月の第17回全日本総合ハンドボール選手権大会、そして来年の第20回国民体育大会を控え、協会の総力を結集して大会運営に当たる覚悟でおります。

なにしろ本県では未普及の種目であり、さらに指導者が不足し、一人で二役－三役を兼ねる状態です。選手強化、施設の整備拡充、競技役員の養成などで年次計画をたてて実施している。それでもじゅうぶんとはいえません。昨年の8月に国体会場地を中津市から大分市に変更、それにともなう問題点も未解決のものがあります。しかし隣接の福岡、熊本両県の諸兄の適切なるご指導、日本協会の理解あるご援助により大会運営を切り抜けて行かねばならぬと思っています。

私の若い時代は相撲、柔道が盛んでした。私もこの種目が得意であり、各種大会に参加し優勝したこともありました。ところがハンドボール競技は会長を引き受けるまで全然その知識がなく、会長を引き受けるさいにもちょっと迷った次第です。会長になってから勉強をすることにして引き受けたのです。

今さら声を大にしていうまでもなく、この競技は青少年のスポーツ活動のみならず、一般の人々にも推奨できる非常によいスポーツであることを理解しました。昨年の11月に第4回西日本一般男子ハンドボール選手権大会を大分市で開催、教員、一般の優秀なチームの参加を得て非常によい試合ができ、深い感銘を受けました。参加選手の態度、競技場におけるマナーなどは他競技に見られないほどりっぱなものがありました。このような点を後進県である本県の選手たちにも見習わせるようにしたい。

私の目標として九州においては福岡、熊本両県に早く追いつくこと。そのためには県内の競技人口を増やすこと。中学校、高校でより多く実施し、その底辺を広げることが先決であろうと考えています。さし迫っての大分国体に備え、現在では各5種目とも一層の練習を重ねています。さる6月19日、20日の全九州高校選手権大会で男子が初優勝、女子3位という成績でした。本県一般女子唯一のクラブとして「大分府内ライオンズクラブ」があります。本年2月誕生したばかりのチームです。大分市ライオンズクラブの会員が各自の事業所から一人ないし二人の選手を送り出しているのです。選手たちは午後3時になると事業所から解放されて、練習のにはいるです。実業団としては風変わりなクラブ組織のチームです。

第16回全国高校選手権大会・熊本市

桜台高（愛知）9度目の優勝

女子は静岡城北高が3度目

高松宮杯第16回全国高校ハンドボール選手権大会は8月1日の開始式に次いで2日から熊本市水前寺陸上競技場で行なわれた。男子は48チーム、女子は46チームが参加。男子は初出場の沖縄代表（興南高）が本土チームに対して堂々とプレーを続けた。男子は予想どおり桜台高（愛知県）が圧倒的に強く、同じく愛知県代表の名城大付高を破って第14回大会（昭和38年）に次いで通算9回目の優勝をとげた。女子は第1シードの栃木女（栃木）が準々決勝で姿を消し、決勝は地元熊本市立（熊本）と第2シードの静岡城北高（静岡＝前回2位）との間で争われ、静岡城北高が第14回大会（昭和38年）に次いで通算3回目の優勝を飾った。なおこの大会には高松宮ご夫妻がご観戦になった。

初出場の沖縄・興南が善戦

男子

▽1回戦

伏見工（京都）15（10－7 5－6）13 麻生（茨城）

〔評〕いいゲームだった。伏見は7MTを落とし苦戦した。麻生は山本、大川、永作らが健闘したが及ばなかった。

大曲農（秋田）20（12－4 8－5）9 矢掛（岡山）

〔評〕大曲農は矢掛のシュートミス、パスミスに乗じ、速攻を決めて大勝した。矢掛は三宅のプレーがよかった。

天草（熊本）15（9－8 6－4）12 小松（石川）

〔評〕地元天草は初出場。よく走り、そしてロングシュートを決めた。小松は後半走り負けてしまった。

加納（岐阜）13（8－6 5－6）12 上田（長野）

〔評〕両チームともディフェンスがよかった。加納の勝因はシュート力がすぐれていたこと。上田は手島の好リードが光った。

佐野工（大阪）30（13－7 17－8）15 香椎（福岡）

〔評〕佐野工は吉田がひとりで14点をあげる活躍。速攻、セット・オフェンがよかった。香椎は攻撃の幅がせまく、防御も弱かった。

神代（東京）14（6－4 8－2）6 仙台一（宮城）

〔評〕両チームともロングを打ったが、シュートコースが甘かった。後半神代が速攻を決めて勝った。宮城は単調な攻撃が敗因。

鎌倉学園（神奈川）31（14－3 17－3）6 鹿町工（長崎）

〔評〕チーム結成5カ月の鹿町工は大いに善戦した。試合を捨てず、最後までよくがんばった。こんごの上達を祈りたい。

富岡（群馬）21（9－8 12－7）15 高松一（香川）

〔評〕後半15分ごろまで追いつ追われつの接戦。富岡は試合運びに一日の長。高松は麻谷、藤本、井上のプレーが印象的だった。

大分商（大分）14（9－7 5－6）13 塩山商（山梨）

〔評〕大分は塩山ディフェンスの甘さをついて攻め勝った。塩山は後半よくがんばったが、前半の2点差が最後まで響いた。

三国丘（大阪）20（12－9 8－10）19 藤島（福井）

〔評〕藤島の健闘が光った。溝口、東川のプレーはよかった。三国丘のロングがよく決まり、これが勝因。

名城大付（愛知）26（9－3 17－4）7 東根工（山形）

〔評〕東根工の善戦を期待したが大敗した。名城大付は愛知県の激戦区から出ただけあってすばらしいプレーをみせた。この試合で有本、花木がともに8点をあげた。

興南（沖縄）18（10－7 8－8）15 土佐（高知）

〔評〕初参加の興南のパスワークはよかった。それに田場の好リードによりポストプレーが生きた。速攻もよかった。土佐はゴー

ル前の動きが悪く、前半7MTを2本落としたのが痛かった。

得００３０６２１３３００
南稔原間渡場袋清田波寄峰
原久　原
興上普管小田島上松伊友高
GK｛　｝FP　計18

佐林村田水見淵利島松岡本
土小野前清堀田毛鍋小片坂
得００３１４２５００００
GK｝　FP　計15

高島（滋賀）18（9－7、9－8）15 安積（福島）

〔評〕最初から激しい攻防を展開。高島はゴール前の早い動きから安積の守備陣をくずした。安積の中村、阿部のプレーはいい。

足利（栃木）23（9－8、14－5）13 柏崎工（新潟）

〔評〕前半足利のミドル・シュートを柏崎のGK田中がよく防いだ。後半足利がチャンスを確実にものにして勝った。

浦和市立（埼玉）24（9－5、15－10）15 青森（青森）

〔評〕青森は長身田辺のロングにたよりすぎ、攻撃がちょっと単調すぎた。それに帰陣がおそく、浦和の速攻に敗れた。

氷見（富山）19（9－3、10－6）9 松江工（島根）

〔評〕氷見のサイド攻撃、中央攻撃、セットプレーの成功が勝因。松江にフリーシュート、7MTの確実さがほしかった。

▽2回戦

明星（東京）18（6－3、12－11）14 伏見工

〔評〕技倆、体力は互角だったが、明星の豊富な試合経験がものをいった。伏見はセットプレーにこだわりすぎた。

盛岡一（岩手）15（6－7、5－4、2－2、2－2）15 大曲農
抽選勝ち

〔評〕大会初の延長戦となったが、両チームともよくやった。盛岡も大曲も速攻をもっと使った方がいい。

天草 21（9－7、12－7）14 添上（奈良）

〔評〕天草はよく走ってチャンスを得点に結びつけた。添上はシュートミスを繰り返して自滅。添上の岡井、奥川、藤原は好選手。

桜台（愛知）23（7－3、16－5）8 加納

〔評〕桜台の勝因は豊富な練習によってミスが少なかったこと。体力、気力ともすばらしい。加納は会津、大栗、本田が活躍した。

佐野工 29（14－8、15－9）17 明石（兵庫）

〔評〕明石はパスワークに苦しみ、とくに個人プレーになりすぎた。佐野は前半主導権を握ったまま明石を押えた。

神代 18（9－2、9－5）7 鹿児島工（鹿児島）

〔評〕鹿児島工は前後半を通じてシュート力が不足、これが敗因となった。神代の順当勝ち。

鎌倉学園 17（4－5、13－4）9 四日市工（三重）

〔評〕両チームとも前半よく走って好試合を展開。四日市は後半パスワークが乱れ、鎌倉の小野口らに打たれて敗れた。

新居浜工（愛媛）19（9－9、10－2）11 富岡

〔評〕富岡は前半健闘したが、後半動きが悪くなり、新居浜の塩崎らの速い攻撃についていけなかった。

大分商 11（3－5、8－4）9 下関中央工（山口）

〔評〕第3シードの下関は大分の善戦に苦しみ、2点差で敗れた。大分の速攻はよかった。

三国丘 25（12－5、13－8）13 修道（広島）

〔評〕修道はもう少しセット・オフェンスがしっかりしてたらよかったと思う。三国丘は自己のペースをくずさなかった。

名城大付 26（13－5、13－6）11 中大付（東京）

〔評〕中大付は名城大付の厚いディフェンスを抜けなかった。サイド攻撃を考えてもよかったと思う。名城大付は攻守ともりっぱ。

興南 24（6－7、18－12）19 都城泉ケ丘（宮崎）

〔評〕前半接戦となったが、後半興南はシュートに変化をみせて泉ケ丘を破った。泉ケ丘の青木、平山、中村の健闘が光った。

函館東（北海道）16（7－8、9－7）15 高島

天草―小松戦、海津（小松）のシュート。（熊本日日新聞提供）

〔評〕 1点差。函館東の粘り勝ち。きびきびしたプレーはよかった。ただ互いにシュートが雑だった。

県和歌山商（和歌山） 26（9―6、17―4）10 足　利

〔評〕 前半10分まで足利が3―0とリード。このあと9―6と和歌山よく走り、一方的な勝利。

清水市商（静岡） 28（14―4、14―6）10 浦和市立

〔評〕 浦和は金子がひとりで8点をあげたが、地力にまさる清水は大石の8点をはじめ、服部、三ツ井、芦沢らが着実に得点した。

氷　見 17（6―8、11―7）15 熊本市商（熊本）

〔評〕 氷見は第2シード熊本市商を破を殊勲をたてた。後半氷見はGKのボール出しがよく、これが得点に結びついた。熊本市商の榊は7点をあげた。

▽3回戦

明　星 23（9―3、14―6）9 盛岡一

〔評〕 明星は鈴木の故障欠場でコンビが悪かったが、清水と佐々木、田中の活躍で大勝。盛岡はポストプレーにこだわり、またディフェンスも甘かった。

桜　台 27（13―3、14―7）10 天　草

〔評〕 基礎技術に差があった。桜台は全選手がよく走りシュートも確実。天草は善戦したが、オフェンスの幅がせまかった。

佐野工 28（14―5、14―10）15 神　代

〔評〕 佐野工は多彩な攻撃を展開。とくに喜田の好打はすばらしく、ひとりで17点をあげた。神代はスタンディング・シュートが多く自滅した。

新居浜工 23（9―7、14―5）12 鎌倉学園

〔評〕 新居浜の速攻、鎌倉の遅攻、対照的なチーム。鎌倉は前半善戦したが、後半新居浜に走られて敗れた。新居浜にローリングからの得点があれば理想的だ。

三国丘 24（8―8、11―11、3―0、2―3）22 大分商

〔評〕 大分の善戦が光った。実力差は全くない。大分の榊、中山は好選手。三国丘は鳥川がよかった。

名城大付 30（11―4、19―4）8 興　南

〔評〕 名城大付はテンポの早い試合運びと多彩な攻撃で勝った。興南は遅攻で食い下がったが、惜しくも敗れた。興南の健闘を賞したい。

函館東 17（5―4、12―3）7 県和歌山商

〔評〕 前半は1点差。後半函館東は速攻の連続で県和商を押えた。県和商はシュートミスが多かった。

清水市商 13（6―5、7―5）10 氷　見

〔評〕 前半一進一退。後半清水はロングシュート、走力で氷見の反撃を断ち切った。氷見は三国、高橋、関、宝住、平瀬がよくやった。清水の大石は7点をあげた。

▽準々決勝

桜　台 23（10―5、13―9）14 明　星

	桜台	得	明星	得
GK	杉山	0	清水	0
GK	吉田	0	中島	0
FP	高鍬	2	佐々木	3
FP	阪野	0	鈴木	5
FP	高橋	5	勝島	0
FP	金森	1	後藤	2
FP	浅野	0	宇佐見	3
FP	日下	4	木全	0
FP	大矢	4	田中	0
FP	小島	7	荒井	1
FP	高橋	0	氷海	0
		23		14

〔評〕 桜台は速攻からのポストプレー、カットインプレー、ロングシュートと全く申しぶんない攻撃を展開。ただディフェンス面で相手のユニホームをつかむプレーがあった。退場者2人。7MT5本をみてもよくわかる。明星は鈴木、宇佐見らががんばったが、及ばなかった。

新居浜工 23（14―9、9―5）14 佐野工

	佐野工	得	新居浜	得
GK	南	0	田頭	0
GK	清水	0	河野	0
FP	笠松	5	池田	2
FP	泉	0	加藤	10
FP	船野	0	横内	0
FP	喜田	5	曽我部	1
FP	堀	1	塩崎	8
FP	武山	3	桑山	2
FP	滝本	0	白石	0
FP	若狭	0	森谷	0
FP	山石	0	佐伯	0
		14		23

準々決勝清水市立商―函館東、後半4分服部（清水市立商）のシュート失敗（熊本日日新聞提供）

〔評〕 新居浜は佐野工のポイントゲッター喜田をマークしたのが勝因。佐野工はこの喜田が負傷退場したのでコンビがとれず大敗した。

名城大付 18（7―9、11―3）12 三国丘

	三国丘	得	名城	得
GK	辻野	0	吉田	0
GK	河村	0	横江	0
FP	阪口	3	有本	5
FP	木村	3	西脇	5
FP	西田	0	神田	0
FP	宮崎	0	花木	2
FP	古屋敷	0	千葉	4
FP	西尾	1	近藤	1
FP	島川	3	高橋	0
FP	中野	0	勝田	1
FP	上田	2	竹内	0
		12		18

〔評〕 三国丘は古屋敷、西尾、島川で攻めると名城大付は有本を中心に西脇、千葉で反撃し前半は2点差。後半名城大付は速攻で加点し、三国丘を寄せつけなかった。

清水市商 14（9―7、5―3）10 函館東

	函館	得	清水	得
GK	加藤	0	入沢	0
GK	渡辺	0	望月	0
FP	田中	1	大石	8
FP	信太	3	服部	1
FP	福島	3	芦沢	4
FP	斎藤和	1	長島	0
FP	斎藤正	1	杉山	0
FP	西野	1	三ツ井	1
FP	臼杵	0	内田	0
FP	須藤	0	風間	0
FP	岩本	0	片瀬	0
		10		14

〔評〕 清水は大石を中心とした縦のセット・オフェンスからの攻撃に威力をみせた。函館もサイド攻撃を主体にセットを組んでそれ

ぞれ持ち味を生かしていた。前半清水は力強いプレーをみせてリード。後半は両チームとも疲れが出てあまり盛り上がらなかった。

▽準決勝

名城大付 19（7－6 12－8）14 清水市商

〔評〕名城大付は前半早い動きで清水ディフェンスをゆさぶり、

得	清水		名城	得
0	入沢	GK	吉田	0
0	望月	GK	横江	0
5	大石	FP	有本	5
5	服部	FP	西脇	6
3	芦沢	FP	神田	0
0	長島	FP	花木	2
0	杉山	FP	千葉	5
0	三ッ井	FP	近藤	0
0	内田	FP	高橋	0
1	風間	FP	勝田	1
0	片瀬	FP	竹内	0
14				19

早いところ4点をあげた。だが前半の中ごろからディフェンスが荒くなり、連続3人の退場者を出した。この間に清水は追い上げて前半は1点差。後半の清水はリードすべきチャンスはいくらでもあったが、7MTをはずし、ロングも雑で逆転できなかった。

桜台 23（10－4 13－5）9 新居浜工

得	新居浜		桜台	得
0	田頭	GK	杉山	0
0	河野	GK	吉田	0
1	池田	FP	高鍬	6
7	加藤	FP	阪野	1
0	横内	FP	高橋	8
0	曽我部	FP	金森	0
0	塩崎	FP	浅野	2
1	桑山	FP	日下	1
0	白石	FP	大矢	2
0	森谷	FP	小島	2
0	佐伯	FP	高橋	1
9				23

〔評〕桜台はよく走り、テンポ

2勝は大収穫

手記

安次富 善弘（沖縄・興南高監督）

高松宮ご夫妻と記念撮影の興南高チーム

沖縄から参加できたことを心から非常に喜んでいる。全国のみなさんのご協力に感謝しています。

沖縄のハンドボールは新しく、ことしの6月にできたばかりです。そして6月下旬に第1回沖縄高校大会を開き、私たちの興南高が初優勝してインターハイ出場が決定したわけです。沖縄大会の参加チームは男子8チーム、女子7チームでした。私たちハンドボールチームはハンドボールの練習を始めたのは二カ月前です。その前はバスケットボールチームでした。大会前一週間目にハンドボールに切り替えたわけです。わずか二カ月たらずの練習で、しかも初参加で私たちは全国大会で2勝できたのは大きな収獲でした。

優勝候補チームの試合を見ましたが、実にすばらしかった。そしてまた非常に勉強になりました。沖縄に帰りましたら、このプレーを学ばせたいと思います。最後に全国のハンドボールチーム及び協会役員の方、熊本のみなさん。滞在中お世話になりました。来年またお会いしましょう。

ほんとうにありがとう

上原 稔（興南高主将）

7月26日午後5時。私たちのチームはどの程度の善戦ができるかという不安と、全国大会に出場できるという喜び、期待を胸に秘めて沖縄を出発しました。思えば6月27日の沖縄予選でインターハイ出場権を得たのですが、沖縄の高体連では全国大会出場を許可するかしないかとのいざこざがありました。私たちは〝全国大会出場決定〟だけを信じ、八木コーチ（福島県安積高出、現琉大学生）の指導で練習しました。『君たちがこうして練習に励んでいれば、必ず参加決定の日はくる……』、『そのまま練習をやめて楽な道を行くのと、その道は苦しいけど最後までやり通して行く』――八木コーチはいう。それから幾日か苦しい練習に耐えてきた。出発一週間前に全国大会派遣許可書を受け取り、うれしさを押えきれなかった。

7月28日午後3時。今までのいざこざを一切忘れ、気持ちを新たにしました。私たちは自衛隊健軍駐屯地に着き、さっそく練習をやりました。自衛隊を知る機会が与えられたことは、私たち一同にとって喜ばしいことの一つです。こんなに規律正しい、時間の観念が強く、学ばなければいけない点が多数ありました。朝は8時に国旗掲揚、夕方5時の国旗降納によって私たちが日本の国民であるという意識を強くしました。また私たちへの歓迎の一つ一つが私たちを勇気づけてくださった。そして大会になると全国の代表の前で私たちを紹介してくださった高体連、熊本県高体連の心づかいに感謝しています。皆さんのおかげで私たちは2勝できました。ほんとうにありがとう。

熊本市立 1点差に泣く

女子

▽1回戦

熊谷商工（埼玉）10（5−4 5−3）7 生駒（奈良）

〔評〕生駒はちょっとファイトがなかったようだ。しかし石橋のプレーはよかった。熊谷は原口、石原、鯨井ががんばった。

津女子（三重）12（7−6 5−4）10 小松市女（石川）

〔評〕小松は立ち上がり左サイドから連続ゲット。だがサイド攻撃に片寄りすぎてしまった。津はチャンスを確実にものにした。

名古屋女商（愛知）18（8−3 10−4）7 神代

〔評〕神代はパスが遅く、そのうえ切り込みに鋭さがなかった。名女商は技倆、体力にすぐれていた。

熊本市立（熊本）8（7−3 1−3）6 盛岡二（岩手）

〔評〕盛岡二は7MTを3本も失敗したのが敗因。熊本ディフェンスは2−4のコンビがよく、カットインに成功。実力伯仲。

高岡女（富山）14（7−3 7−6）9 井原（岡山）

〔評〕高岡は杉山のポストプレーに沢谷のロングシュートで井原を押えた。井原はジャンプシュートをもっと使えばよかった。

梅花学園（大阪）10（3−3 7−1）4 高知西（高知）

〔評〕後半梅花は速攻で高知西を押しまくった。高知西はスピードがなかった。高知西の国沢はひとりで4点をあげた。

精華女（京都）13（4−5 9−1）6 高志（福井）

〔評〕精華女は後半になると速攻をみせて高志を自己のペースに巻き込んだ。高志は善戦し、河村ががんばった。

足利女（栃木）9（4−5 5−2）7 柏崎常盤（新潟）

〔評〕体力、技倆は互角。足利は山崎の好プレーが光った。柏崎は前半よく走ってリードしたが、後半疲れが出て走れなかった。

県和歌山商（和歌山）9（5−2 4−6）8 山梨（山梨）

〔評〕1点を争う好ゲーム。タイムアップ1分前に和歌山はポストプレーを成功させて勝った。山梨は前半の失点が大きすぎた。

半田（愛知）19（10−2 9−5）7 前橋市女（群馬）

〔評〕半田の勝ちは順当。ポスト、ロング、フェイントはうまい。前橋はちょっと力不足。

八幡商（滋賀）12（7−5 5−6）11 平塚江南（神奈川）

〔評〕全く同型のチーム。もう少しスピードがほしかった。八幡の高木、江南の鎮野のプレーはよかった。

和洋女（秋田）11（5−5 6−4）9 寝屋川（大阪）

〔評〕両チームともよく練習したあとが見られた。セットプレーからポストによくボールを回していた。和洋女のスピード勝ち。

桜水商（東京）14（6−2 8−2）4 松江市女（島根）

〔評〕オーバー・ステップ気味の走りが多かった。桜水は走りながらのシュート、パスがよく通った。松江は走りがたりなかった。

水海道二（茨城）20（11−4 9−6）10 室蘭商（北海道）

〔評〕室蘭は姫野がマークされてパスが乱れた。水海道の走力はいい。ただ両チームともディフェンスが荒かった。

▽2回戦

栃木女（栃木）9（3−1 6−0）1 熊谷商工

〔評〕熊谷に積極的な攻撃が見られず、スタンディング・パスが多かった。熊谷はもっとファイトを持ってほしい。

佐原女（千葉）11（6−5 5−5）10 津女子

〔評〕佐原は体力に恵まれ、エリア前の切り込みがよかった。津女子はロングで決めていたが、速攻を研究したら強くなる。

名古屋女商 9（3−4 3−2 ⋮ 2−1 1−0）7 小高農（福島）

〔評〕両チームともすばらしい動きをしていた。小高農の善戦は高く評価していい。名女商は小島が8点をあげ、ワンマンチーム。

熊本市立 23（12−1 11−0）1 小諸商（長野）

〔評〕小諸はディフェンス、オフェンスともいま一歩の努力が望ましい。チーム全体としてよくまとまっているので今後が楽しみ。

県尼崎（兵庫）11（5−5 6−2）7 加治木（鹿児島）

〔評〕前半互いによく走り、早いセットプレーを展開。後半加治木はパスミスで苦戦し、中馬の健闘もむなしく敗れた。

山陽女（広島）11（2−3 9−5）8 高岡女

〔評〕山陽はパスワークが悪く苦戦したが、後半速攻を展開して勝った。高岡の藤のプレーはよかった。

新居浜西（愛媛）13（3−5 10−1）6 梅花学園

〔評〕梅花は中務、谷口の好プレーで前半リードしたが、後半新居浜の体力、スピードに敗れた。

明善（福岡）17（9−2 8−7）9 精華女

〔評〕明善は速攻で前半9点をあげたが、個人プレーが多かった。精華は広い攻撃をみせたが、シュートが弱かった。

大分東（大分）7（4−4 3−1）5 足利女

〔評〕足利は山崎、長島が健闘したが、大分の走力に敗れた。足利にロングシューターがほしい。

加納（岐阜）14（7−4 7−4）8 県和歌山商

〔評〕県和商は鈴木がマークされてロングが決まらず、これが敗因。加納は高田、伏見、賀藤を中心によく走った。

半田 9（4−5 5−3）8 涌谷（宮城）

〔評〕名門同士の対戦。半田は榊原、涌谷は寺島の好プレーで接戦。涌谷は7MTが決まらなかったのが敗因。

菊池農（熊本）12（5−1 7−4）5 八幡商

〔評〕八幡商は大いに善戦。菊池は垂水が左右から豪快なシュートを決めて8点をあげた。

徳山（山口）20（9−0 11−2）2 佐世保商（長崎）

〔評〕佐世保は最後まで試合を捨てずがんばった。今後を期待しよう。徳山は鈴木、石田のプレーがよかった。

和洋女 24（10−1 14−2）3 都城西（宮崎）

〔評〕和洋の選手は自分のプレーに忠実で、よく走った。都城西は力不足の観があった。基本技術をマスターしてほしい。

桜水商 15（7−2 8−8）10 三本松（香川）

〔評〕三本松は桜水の荒い3ー

3ディフェンスに手こずっていた。それにもう少し走力がほしかった。

静岡城北（静岡） 12（4―2 8―3）5 水海道二

〔評〕 水海道は前半一線防御を敷いて善戦、後半は城北の体力、キャリアにシテやられた。城北は黒柳を中心としたプレーはいい。

▽3回戦

栃 木 女 14（7―2 7―2）4 佐 原 女

〔評〕 栃木は総合力ですぐれ、佐原は動きが悪かった。栃木はロングで決めた。佐原はバックスの詰めが甘く、敗れた。

熊本市立 18（8―4 10―3）7 名古屋女商

〔評〕 熊本は速攻で名女商を圧した。福間、鹿子木、久原の3人がすばらしかった。名女商は熊本のシュートミスをうまくついて反撃したが、及ばなかった。

山 陽 女 14（7―4 7―3）7 県 尼 崎

〔評〕 前半尼崎はパスミスから山陽にカットインされて苦戦。後半はディフェンスが甘く、そのうえロングが決まらなかった。山陽は藤池のシュートがよかった。

新居浜西 9（4―2 5―5）7 明 善

〔評〕 速攻の応酬。新居浜はゴール前の突っ込みが成功し、これが勝因となった。明善は後半リターパス、ポストプレーを使わず失敗した。

加 納 6（3―2 3―3）5 大 分 東

〔評〕 1点を争う好ゲーム。大分は体力があるが、スタミナの配分が悪かった。藤野はよくやった。加納は後半速攻で加点したん、攻撃が単調だった。

菊 池 農 18（5―3 13―4）7 半 田

〔評〕 半田のセット・オフェンスも菊池の厚いディフェンスに通じなかった。逆に菊池の速攻を許してしまった。半田は突っ込みが弱く、シュートに決め手がない。

徳 山 11（7―3 4―3）6 和 洋 女

〔評〕 互いにセットプレーから早いボールさばきをみせた。後半疲れが出て凡戦。わずかに徳山のロングシュートが光った。和洋の落合のプレーはよかった。

静岡城北 12（6―2 6―3）5 桜 水 商

〔評〕 桜水はゴール前での動きが悪く、それに城北の走力に負けた。この試合故意による反則が非常に多く、残念だった。

▽準々決勝

熊本市立 10（6―3 4―4）7 栃 木 女

〔評〕 熊本はスローオフから3分間にフリースロー、カットインなど積極的に攻めて3点をあげた。守りも非常によく、栃木の足を封じてセットを組ませる余裕を与えなかった。栃木もがんばり、金子、綱川のミドル・シュートなどで3点を返したが、熊本もGKのすばらしいボール出しで速攻を展開して前半6―3と熊本リード。後半栃木は金子のゲットで反撃体制にはいったが、その後あせりながら決定打が出なかった。熊本は3点のリードで優位に試合を進め、前年度優勝の栃木を堂々と破った。熊本は最初から足を生かして積極的に攻めたのが勝因。栃木は走りが少なく、縦の突っ込みがちょっとたりなかった。

栃木		得
GK	小川	0
	長島	0
FP	富田	0
	片庭	1
	柴田	0
	綱川	3
	金子	2
	村井	0
	森川	0
	大出	0
	古橋	1
		7

熊本		得
GK	島本	0
FP	久原	1
	鹿子木	4
	福間	2
	米	1
	岡本	1
	川喜多	1
	梶原	0
	阿南	0
	小林	0
		10

山 陽 女 16（6―5 10―6）11 新居浜西

新居浜		得
GK	尾崎	0
	北尾	0
FP	塩崎	2
	明坂	0
	藤田	2
	村上	4
	前田	2
	黒木	1
	藤田久	0
	石山	0
	合田	0
		11

山陽		得
GK	中下	0
	島田	0
FP	木村	1
	今岡	4
	加治	1
	滝口	4
	浅井	3
	藤池	3
	平石	0
	林	0
	池田	0
		16

〔評〕 後半新居浜は疲れが出て、その間に山陽に大いに走られ

写真下は菊池農高―半田高
後半10分青木シュート決る

てしまった。山陽の速攻がものをいった。この試合を見て痛感したのは、反則後のボールの処置を早め、スピーディーにゲームを進めるようにすることだ。

菊池農 13（5—8, 8—4）12 加納

	加納	得	菊池	得
GK	加藤	0	有働	0
GK	大宝	0	中田	0
FP	垣見	0	早川	0
FP	高田	6	垂水	5
FP	賀島	1	青木	0
FP	大谷	0	松野	0
FP	長谷川	2	渡辺	5
FP	伏屋	3	山下	0
FP	小栗	0	愛垣	3
FP	尾藤	0	東	0
FP	後藤	0	和田	0
		12		13

〔評〕 加納の速攻—菊池の遅攻ぎみのセット・オフェンスの対決。加納は菊池を自己のペースに巻き込んで有利に展開し、前半3点のリード。後半にはいると菊池はボールを大切にキープしこれを得点に結びつけた。加納は大事なところでキャッチ・ミス、パスミスを出して菊池に反撃を許し、1点差に泣いた。

静岡城北 12（6—4, 2—4, ……, 1—1, 1—1, 2—1, 0—0）11 徳山

	静岡	得	徳山	得
GK	山田ハ	0	立石	0
GK	松田	0	神田	0
FP	小林	0	鈴木	5
FP	堀	6	山本	0
FP	太田	0	時安	0
FP	黒柳	1	高松	0
FP	山田和	3	石田	2
FP	久保田	2	近森	1
FP	石上	0	松本	0
FP	斎藤	0	高杉	0
FP	鈴木	0	宇多	3
		12		11

〔評〕 優勝候補の城北に対し、徳山はいままでにない善戦ぶり。第一延長まで全く互角。だが第2延長にはいり徳山の動きが少し鈍ってきた。そのすきをついて城北は決勝点をあげた。徳山宇多の好プレーが印象に残った。

▽準決勝

熊本市立 8（3—5, 5—0）5 山陽女

	山陽	得	熊本	得
GK	中下	0	島本	0
GK	島田	0	宮本	0
FP	木村	0	久原	1
FP	今岡	2	鹿子木	4
FP	加治	0	福間	2
FP	滝口	0	米	0
FP	浅井	2	岡本	1
FP	藤池	1	川喜多	0
FP	平石	0	梶原	0
FP	林	0	小林	0
FP	池田	0	阿南	0
		5		8

〔評〕 山陽の立ち上がりはよかった。スローオフから2分間に3点をあげて熊本を圧倒した。ところが今岡にあまりにもたよりすぎ、さらにオーバー・ステップ、チャージングのラフ・プレーが多くてチャンスがなかった。熊本は後半鹿子木を中心にアタックし、山陽をやっと押えた。

静岡城北 11（2—4, 5—3, ……, 0—0, 0—0, 2—0, 2—0）7 菊池農

	静岡	得	菊池	得
GK	山田ハ	0	有働	0
GK	松田	0	中田	0
FP	小林	3	早川	0
FP	堀	3	垂水	5
FP	太田	0	青木	1
FP	黒柳	2	松野	0
FP	山田和	0	渡辺	1
FP	久保田	1	徳永	0
FP	石上	0	愛垣	0
FP	斎藤	2	東	0
FP	鈴木	0	和田	0
		11		7

〔評〕 両チーム立ち上がり激しく攻め合った。城北は前日までのセットプレーから一転してロングで勝負に出た。身長にまさる菊池のロングが城北を上回った。菊池は速攻をまじえて前半2点をリード。後半になると城北は得意の速攻とロングからの鋭いカットインで追い上げてタイ。菊池も早い動きから城北ディフェンスのラフプレーをさそい、7MTを2本決めて再びリードを奪った。静岡も必死に追いかけ、カットインから7MTをとり、さらに17分には強引なシュートが決まって再びタイスコアとなって延長。第1延長タイムアップ寸前に菊池はアンダーシュートを決めたが。ホイッスルがわずかに早く得点とならず。第2延長中盤に城北のミドルシュートを菊池GKはいちどはストップしていながら得点された。こうなると静岡のペース。得意の速攻をかけて大量4点をあげて菊池を振り切った。まれに見る好ゲーム。

▽決勝

静岡城北 8（5—4, 3—3）7 熊本市立

	熊本	得	静岡	得
GK	島本	0	山田ハ	0
GK	宮本	0	松田	0
FP	久原	1	小林	4
FP	鹿子木	4	堀	1
FP	福間	0	太田	3
FP	米	1	黒柳	0
FP	岡本	0	山田和	0
FP	川喜多	1	久保田	0
FP	梶原	0	石上	0
FP	小林	0	斎藤	0
FP	阿南	0	鈴木	0
		7		8

〔評〕 静岡は前半熊本ディフェンスの腰高をうまくつき、フェイントプレーでゆさぶった。熊本は持ち前の強いロングシュートで応酬した。前半は5—4。両チームとも非常に緊張し、これに加えて前日の台風のたゴール前が軟弱。このためパスミス、キャッチミスが多かった。スピードにも欠けていた。後半になっても互いに堅さがとれなかった。熊本は強いボディー・チェックがわざわいしてディフェンスのバランスをくずし、しかも鹿子木ひとりにたよりすぎて1点差で敗れた。静岡は相手のディフェンスの動きをよく見てボールを回し、チャンスとなると積極的に攻めたのが勝因。

◇　◇　◇　◇

女子総評

マナーに注意せよ

清水　正

ゲームを内容的に見ると各チームとも技倆が接近し、1点を追う好ゲームが多かった。技術的には基礎プレーはおおむね良好であったが、早く敗退したチームは攻撃に変化が乏しい。やはり速攻、遅攻、ポストプレー、ロングシュートとの切り替えを考え、もっとダイナミックに試合を進めたらよかったと思う。またスピードと力強さ、機敏さは特に必要であろう。連月の猛暑が選手の疲労を倍加させたことは事実であり、スタミナの配分を誤って不運にもゲームを失った試合があった。

全般を通じ故意の反則が多く見られた。負傷者を出したりしたことは厳に慎しまねばならない。と同時に大会に参加することの意義をよく知り、単に試合のみでなく全体的マナーについての自覚を持つべきである。

総体的に少ない得点

チェコ国内、女子リーグ戦から

ことしの秋の第3回女子7人制世界ハンドボール選手権大会の2回戦は10月プラハ（チェコスロバキア）で日本―チェコスロバキア戦が行なわれる。そこで本誌は近着のスポーツ誌からチェコスロバキア・女子チームの近況をお伝えする。これはチェコスロバチアの国内女子リーグ戦のニュースである。それをご紹介する。

首位ピルゼンは平均7点

チェコスロバキアの女子子チーム数は109と日本より少ないが、競技人口は日本とほぼ同じくらい。世界選手権では、前回第3位とかなりの強国である。この国の女子の最強リーグは10チームで編成され、1チーム当たり18試合を行なう。この上部リーグに現在はいっているチームは、前年度優勝のボヘミアンズ・プラハ、ディナモ・ピルゼン、スラボーユ・オロモウス、スロブナフト・ブラチスラバ、スパルタ・プラハ、イスクラ・フロホベク、タトラン・ストレソビス、スタルト・ブラチスラバ、スラビア・プラハ、スラボーユ・プラハの10チームである。これを見てわかるようにプラハの4チームが大きなウエートを占めている。これに次ぐのがブラチスラバの2チームであり、今年度快調のディナモ・ピルゼンは例のビールの町のチームである。1956年いらい優勝チームはプラハのチームである。今年度15試合終わったところでトップに立っているのは、いずれもプラハ以外の町のチームである。1956年いらい、先にのべたようにプラハのチームが優勝を争っていたが、その中でもっとも数多く優勝しているのがスパルタ・プラハの7回であり、これに次ぐのがここ3年連続優勝しているボヘミアン・プラハである。またディナモ・プラハが1回優勝している。ディナモ・プラハは今シーズンは下部リーグに落ちている。

ボヘミアンズの得点1

ことし最も好成績をあげてるのはディナモ・ピルゼン、スラボーユ・オロモウスの各10勝3敗2引き分けである。つい最近までトップに立っていたボヘミアンズ・プラハは優勝候補の筆頭といわれていたが、スパルタ・プラハとの試合で後半スパルタ・プラハの好守にはばまれ、わずか1点しか得点できず敗れた。これで優勝圏内から一歩後退したが、まだ10勝4敗1引き分けと上記2チームにピタリとくっついている。これと同成績なのがスロブナフト・ブラチスラバである。この4チームの中から優勝チームが出ることは間違いない。

スパルタ・プラハ圏外へ

これに続いているのはスパルタ・プラハの8勝6敗1引き分けであるが、すでにトップチームに勝点で5点の差がついているのではむずかしい。このあとのチームは勝率5割を割っている。しかしそんなに実力差があるとは考えられない。このあとはイスクラ・フロホベスの6勝7敗2引き分け、タトラン・ストレソビスの6勝8敗1引き分け、スタルト・ブラチスラバの5勝9敗1引き分け、スラビア・プラハの2勝9敗4引き分け。最下位はまだ1勝していないスラボーユ・プラハは15戦14敗1引き分け。

7点とれば勝つ

これら各チームがいったい1試合にどのくらいの得点をあげ、失点をしているかを検討してみることにしよう。これによりこれらチームの性格をつかむことができる。

各試合を見ると7点とれば大体勝利は間違いない。2ケタの得点はない。現在トップにあるディナモ・ピルゼンは15試合で総得点107点、総失点73点で、1試合平均の得点は7・1点、失点4・8点である。2位のスラボーユ・オロモウスは得点94、失点65になっており、平均得点6・2、平均失点4・3である。3位のボヘミアンズ・プラハ（昨年優勝）は得点106、失点75といった調子。現在1位にいるディナモ・ピルゼンと極めてよく似た得点経過を示しているのは興味深い。4位のスロブナフト・ブラチスラバは総得点91点、総失点75で、2位のスラボーユ・オロモウスとよく似た得失点を見せている。

このようにチェコスロバキアの女子上級リーグのAクラスのチームの得点は1試合平均6ないし7点、失点は4ないし5点ということになる。これを西ドイツはじめその他の国と比べてみた場合、大体同じような傾向にある。対戦した両チームの差があまりない場合には6点を境いにした試合が非常に多い。対戦チームによほどの差がある場合以外は、6点を上回った方が勝というのが女子ハンドボールのA級チームの常識である。

参考までに5位以下のチームについても同じようなこと見てみよう。5位はここ10年来非常な強チームとして7回も優勝しているスパルタ・プラハ。このチームの今シーズンの総得点71、総失点57と

なっている。平均得点は4・7、平均失点は4・7となっている。イスクラ・フロホベスは得点81とかなりあげ、失点は68と少ない。総得点が総失点を軽く上回っているのに勝てない。タトラン・ストレソビスは総得点56、総失点74で、平均得点3・7、平均失点4・5。スタルト・ブラチスラバは総得点71、総失点92と失点が多い。スラビア・プラハは総得点52、総失点81。失点1試合平均得点3・4ではどうしようもない。最下位のスラボーユ・プラハは得点は66点と普通だが、総失点は驚くなかれ135点。

光るチェルノホルスカ

これらのチームの中から10月に行なわれる日本—チェコスロバキア戦に出場すると思われるチェコの選手を拾ってみよう。ディナモ・ピルゼンは毎試合3点平均の得点をあげているチェルノホルスカがポイントゲッターと光っている。ほかに5人の選手がいる。スラボーユ・オロモウスにはマリノーバというポイントゲッターがいる。このチームは全員ムラなく得点する特徴がある。ボヘミアンズ・プラハにはケルネローバがおり、かなりの得点をたたきだしている。スロブナフト・ブラチスラバにはプレチノバがいる。彼女が当たるとこのチームは非常に強い。スパルタ・プラハは今シーズンはとびはなれて得点をとるプレーヤは見当たらない。イスクラ・フロホベスもとくにこれといった選手はいない。悪くいえば"ドングリの背くらべ"といった形のチームである。

以上に名前をあげたプレーヤーは必ず10月の日本—チェコスロバキア戦で日本選手の前に立ちはだかることだろう。このチェコスロバキアの壁をいかにして突き破るか。日本の女子チームだけでなく、日本のハンドボール界の大きな課題となろう。

海外スコープ

強いディナモ・ブカレスト

攻撃的な女子チーム

ルーマニア

本年度ヨーロッパ・カップにすばらしい成績で優勝したディナモ・ブカレストは国内戦でもすばらしい成績を残している。

ディナモ・ブカレストはイオン・クンスト氏のコーチのもとにイワネスク、モーゼル、コスタケなどの名選手を持ち、ここ数年来ヨーロッパの王座を譲らない。国内でこれに対抗するチームは見当たらない。ルーマニアは上級リーグは10チームによって各2回戦が行なわれる。勝ち点によって勝敗を争う方法。ディナモ・ブカレストは15勝0敗という破竹の進撃で他チームを寄せつけない。2位のステアウア・ブカレストは11勝2敗1引き分けとディナモ・ブカレストに大きく引き離されている。ディナモ・クロンスタットがこれに次いでいるが、全然問題にならない。

ディナモ・ブカレストの特にすばらしい点はその攻撃力にある。巨砲イワスク、モーゼルの2人を持ち、身長を利して敵の頭の上から打つジャンプ・シュートで得点する。この2人により毎試合10点以上をあげている。さらに時おり見せる速攻のさえはこのチームの得点力を倍加している。1試合平均の得点が20点強となっており、他に1試合平均20点をたたき出せるチームはない。失点は1試合平均11点とこれも少ない。しかしこの失点11点は少ない方から二番目である。ディナモ・ブカレスがいかに攻撃のチームであるかがよくわかる。

ルーマニアの女子はどうだろう。ムレスル・TG・ムレス、スティンタ・ブカレスト、スティンタ・テメスバル、ラピッド・ブカレストの4チームがわずかの差で優勝を争っている。特徴なのはこれらのチームの得点がいずれも多数にのぼっていることである。各チームともに12点内外の平均した得点をとっているのは、他国には見られないことである。ルーマニア女子チームも非常に攻撃的である。

世界ユース大会
明後年オランダで

国際ハンドボール連盟は第1回世界ユース選手権の準備を進めている。これは17歳から22歳の男女ユースチームの選手権で、1967年3月4日から12日までオランダで行なわれる。ルーマニアはこの大会出場に備えてチーム強化をはかっている。この大会までにルーマニア女子選抜チームは11月に西ドイツで行なわれる第3回女子7人制世界選手権をはじめユーゴのザグレブ・トーナメントなどに出場する予定。またその前に9月10日から17日までのルーマニア対ソ連ユース、10月1日ガラチで、また10月3日ブカレストで行なわれるチェコ・チームとの対戦、さらにはソ連遠征などの予定がある。

男子ユース・チームのスケジュールは11月17日から21日までのブカレスト市杯大会、11月23日の対ユーゴ戦、12月17日の対西ドイツ戦などがいずれもブカレストで行なわれる。またルーマニア・チームはグデンスク（ポーランド）での『バルト海杯』（7月20日〜24日）に参加する。この試合にはソ連、ユーゴ、ポーランドの第一、第二チームが参加する。

こうした試合出場とは別にルーマニアのコーチたちは7月7日から14日までポイアナ・ブラソフで開かれた再訓練講習に参加したが、この講習にはIHF技術委員長エミール・ホルル氏（スイス）も招かれた。また7月17日から22日まではユーゴで行なわれた講習にもシルリゲアヌとシデア両コーチが参加した。（ルーマニヤ通信）

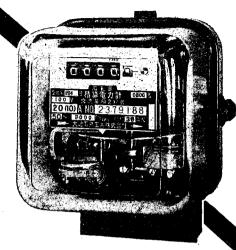
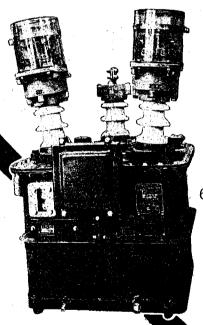
ポーランド協会新役員

▽会長　カジミェルツ・プルドキー
▽首席副会長　ボリスラウ・ビドジャ（スポーツ）
▽次席副会長　カジミェルツ・スクリペック（組織）
▽理事　ミリアン・シリニビック
▽会計　ユーゼニアス・クックニスキー

× × ×

Osaki

最高の確度と信頼度を持つ

積算電力計

OBOG型広範囲単相積算電力計

計器用変成器

6600V用重予型PCT

主要製品

積算電力計・電流制限器
計器用変成器・電圧調整器
配電盤・分電盤・制御盤

大崎電氣工業株式會社

本社・五反田工場	東京都品川区五反田1の263	電話東京(443) 7171代表
蒲田工場	東京都大田区原町10	電話東京(732) 6511代表
埼玉工場	埼玉県入間郡三芳村大字藤久保	電話所沢 (22) 1205代表

もてるポロシャツ
もちたいポロシャツ
レナウンポロシャツ
ボンネル
RENOWN
レナウン
レナウン工業株式会社
レナウン商事株式会社
東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

楽書帖

雲助、ルーマニアへ行く

鷲尾武治

○…"熊本の雲助"こと白取義輝さん（水俣市教育委員会勤務）がルーマニアへ行った。ルーマニアといえばハンドボールのチャンピオン・チームである。うらやましい話だが。実は白取さんはハンドボールでなく、欧州カヌー選手権大会の日本チームの監督として行ったのだ。熊本国体のときは水俣会場の設営に大奮闘し、昨年もフランスのステラ・チームが来日したときは一行をわざわざ水俣市へ招いて歓待したほど。熊本ハンドボール界になくてはならない人物。それがいつの間にかカヌーに乗り換えてしまった。これは高嶋理事長の助言もあってカヌーのお手伝いをしたのが運のツキ。東京オリンピックのときはボートマンとなって選手の世話に明け暮れ。

○…「とにかく雲助がヨーロッパに行くので心細い。恥をかかぬようマナーに気をつけます。高嶋理事長がルーマニア体協のツドール氏やハンドボールの名監督クンスト氏に紹介状を書いてくれたので一安心です。時間があったらルーマニアのハンドボールをぜひ見てきたい。とくにことしは西ドイツ女子の世界選手権大会があるので、できるだけルーマニアのことを調べてきたいと思っています」—これは7月30日横浜港を出港するときの弁。帰国は8月28日の予定。帰国したらさっそく渡欧報告でも聞きましょう。

○…インター・カレッジで芝浦工大が2連勝、通算7度目の優勝。芝浦工大のベンチにいた三浦元秀ハンドボール部長は大喜ぶ。「春の関東学生リーグで立大に負けたでしょう。なんとしても勝ちたかった。中沢君、佐藤君はじめ選手の諸君もよくやってくれた。こんなにうれしいことはありません」という。"この調子なら夏の全日本総合選手権大会でも優勝できますよ"と水を向けたら「いや。インターカレッジで優勝したので満足しています。あまり欲は出しません」と控え目。選手たちに胴上げされたときの三浦先生は"盆と正月"が一緒にきたような喜びよう。

○…6月の名古屋場所大相撲で出張したときのこと。私の社（共同通信）のサジキ席のすぐ後ろがNHKの放送席。初日の朝、熱心？に仕事していたら、後ろからポンと肩をたたくものあり。振り返ってみたらNHK名古屋中央放送局の杉山茂君（本誌でおなじみの人）。それからがたいへん。土俵に背を向けて雑談。"なんの話かって？"聞くだけヤボですよ。もちろんハンドボールの話。これを長々とやってのけた。それが毎日のこと、二日目も三日目も四日目も…。「よく話す材料があるものだ」とひとりで感心した次第。ご退屈さま。

パトロール

私はハンドボール記者

渡辺邦雄

「あたしゃ、新参の弟子には、高座に立ったらお客をカボチャかヘチマと思え。そう思えやけいこ場と同じようにしゃべれるんだ。そういっているんです。お客には失礼だがね」——ある有名な落語の師匠の話。

「お客がはいればはいるほどファイトが出るね。調子もかえってよくなるで。テレビの中継があればなおさら張り切りまっせ」——プロ野球の金田投手はこういいます。

7月10日は全日本学生選手権の男子決勝戦。宿命のライバル芝浦工大と立教大の顔合わせ。高松宮ご夫妻をはじめ協会のおえら方もずらり。慶大ブラスバンドも特別出演して景気をつければ、芝、立の応援団も駆けつけました。NHK教育テレビの中継用カメラが正面スタンドにでんと据えられ、そうでなくとも決勝戦のあの重苦しい雰囲気にまた一段と重圧感を与えていました。「こいつぁ選手もあがるな」。そう思ったのも間違いじゃなかったようです。

笑顔まじりでコートに飛び出した立大勢でしたが、やはり"緊張感をゴマ化す笑い"だったようです。芝浦工大にももちろん堅さは見られましたが、追われる立ち場の立大の方がひどかったですね。あいにくの強い風と雨。高松宮殿下が高嶋理事長に「こんなひどい条件でハンドボールをやるのはいけませんね」とおっしゃったそうですが、確かに条件としては好プレーを期待するのは無理だったかもしれません。でも両チームとも条件は同んなじ。白いユニホームも真っ黒になるほどエキサイトした試合。結果は15—9。芝浦工大はお得意の速攻のさえをみせて前半でほぼ勝負をつけてしまいました。

技術的には五分と五分。なのにこんなに点差が開いたのはなぜでしょう。芝浦工大が立大のエース木野を徹底的にマークした好作戦。速攻の速さとうまさで立大をしのいでいたこと。関東リーグの雪辱を期してすさまじいほどのファイトでぶつかり、いい意味でのラフ・プレーをみせて圧倒したこと。いろいろあるでしょう。でもなんといっても立大が前半あまりにも堅くなって日ごろの実力を最後まで出し切れなかった——これが点差の開いたいちばんの原因だと思いました。はっきり申すならば立大は精神力で芝浦工大に劣っていましたね。

落語の師匠や金田投手とはおのずと立ち場も根本の目的も違います。経験の量も違います。それほどずうずうしくなれといっても若い学生には無理かもしれません。

ハンドボール記者になって約半年。素人の域を出ない記者の目から見た決勝戦。とにかく少しでも早く日本も世界一流の仲間入りしてもらいたい。そんな気持ちになるほど、もうすっかりハンドボールのファンになった私の感想でした。（朝日新聞記者）

第6回男子7人制世界選手権に備えて

話す人　松本重雄

対　談

今秋西ドイツで開れる第3回女子7人制世界選手権大会に出場する日本代表チームは、目下高崎理事長を中心に選考を急いでいる。ところで明年は日本チーム（男女）のソ連遠征、中国チーム（男女）の日本遠征、さらにチェコスロバキア・チームの日本遠征が予定されている。この国際試合に出場する日本ナショナル・チームの編成について日本協会は具体案を練っているので、日本協会技術部長の松本重雄氏（日本協会常務理事）に「どのようにしてナショナル・チームを編成するのか」、「ナショナル・チームを強くするにはどうするか」…といろいろ聞いてみた。

早急にナショナル・チームの編成を

32人を選抜（第1次）

—ことしの女子世界選手権大会の代表選手は高嶋理事長に一任することでケリがついた。来年は日本男女チームのソ連遠征、中国男女チームの来日がすでに決まっている。それに聞くところによるとチェコスロバキア男女チームも来日する計画があるとか。そこで私は松本技術部長にいろいろお聞きしたい。この三つの国際試合に出場する日本チームはどのようにして編成するのか。

松本　ナショナル・チームの編成については技術部としての案がある。男女とも優秀選手を32人選抜して定期的に強化合宿を行なう。こんどの女子世界選手権大会もこの案でいくつもりで案を作成したが、いろいろな事情で実現できなかった。ことしの女子はいわば戦時体制とでもいっていい。それで女子については技術部案を撤回し、高嶋理事長にお願いしたわけです。来年の国際試合の構想としてはぜひ日本ナショナル・チームを編成して試合をさせたい。そのためには男女ともナショナル・チームを編成する。方法としてはさっきも言ったように男女とも32人を選抜して合宿させ、その中から16人を日本ナショナル・チームとする。とりあえず8月の全日本総合選手権大会の結果を見て選抜し、第1次合宿を11月下旬か12月上旬に目標を置いている。第2次合宿は年度内、つまり明年の2月か3月ごろを予定している。このためにはある程度の予算措置を講じなければならない。

—ことしの女子世界選手権大会もこの方法でやるべきではなかったか。

松本　私はこの方法がいちばんいいと思った。このためには日本協会が経費の大半を負担する覚悟でないとできない。実業団にあまり迷惑をかけたくないのが本心です。それで選手を推薦してくださるよう各チームにお願いしたのですが、不況という大きな障害にぶつかって思うようにいかなかった

—ことしの世界選手権は別にしましょう。来年の国際試合のための日本ナショナル・チームの編成は日本協会として大きな仕事と思う。強化合宿費などの点で心配はありませんか。

松本　日本体育協会から強化費がきたので、経済的に少し余裕がある。この機会にの制度を確立させたい。

監督、コーチも決める

—ナショナル・チームの候補選手は男女とも各32人というが、監督、コーチはどうするのか。

松本　選手だけを決めてもなにもならない。監督、コーチも決め

ておく。そしてナショナル・チーム16人のすべてのことを監督、コーチに委せてしまう。監督が自分の思うように選手を指導していくのがいい。残りの16人を二軍チームとする。最終段階において監督、コーチ、一軍選手16人が決まったら、一年間このメンバーで押し通す。国内の国際試合も海外遠征も同じメンバーでいく。監督も一軍監督、二軍監督をおく。

—16人のナショナル・チームの中には、いろいろな事情で海外遠征ができないことも出てくると思う。そのときはどうするのか。

松本　そのときはいろいろな条件を検討したうえ、二軍チームから推薦する。こういうシステムができたら日本はいまよりもっと強くなりますよ。

—ヨーロッパ各国を見てもナショナル・チームは現存しているし、監督も一定している。こうあるべきでしょう。日本はいままで財政的にも時間的にもできなかった。これからが楽しみですね。

松本　一日も早くこうなってほしいと思います。私はいままでにも強化合宿をやってみたかったし、コーチ制度を確立したかったのですが、経済的な理由でできななったのです。いまからおそくないので大いにやります。

チェコからコーチ招く

技術を出し合って研究

—外国から有名な監督かコーチを日本に呼ぶ計画はないのか。

松本　ある。いまの計画によるとチェコスロバキアのコーチであるケーニッヒ氏を呼びたいと思っている。まずこのコーチに日本の試合を見せ、そしてコーチさせる。もちろん日本のコーチもはいってやる。外人コーチ、日本のコーチ、日本の監督の3人が一体となってナショナル・チームの長所、短所を見つけてコーチする。お互いに持っているハンドボール技術というものを出し合って研究し、改革していくことが大切です。

—日本の監督は自分の持っているすばらしい技術というものを、他人に教えたがらない。その気持ちはわかるけれど、日本が世界に大きく飛躍するためにはこのすばらしい技術を出し合う必要があると思うが…。

松本　ハンドボールの第一線級の監督、コーチが、自分のチームしかコーチしないのは気持ちがせますぎる。ひとつのチームにこだわっていてはいけない。すべてをさらけ出して研究するくらいの気持ちがあってほしい。いままであったとしても技術的な解明まではいっていない。みんなが力を出し合って解明する。そしてこれをプレーの上で実行する。こうなれば日本のレベルはぐっと上がるはず。監督は監督の座を離れて日本ハンドボール界のために協力する気になってほしい。

—もし来年の国際試合に備えてナショナル・チームが定期的に強化合宿するようになると、必然的にこういう形になると思うが…。

松本　とにかく合宿にはいったら、監督、コーチが自分の技術を出し合う。その中から新しい技術を知る。これが大切です。たとえばAの技術をB、Cが見て吸収する。Bの技術をA、Cが知る。これは非常にいいことである。監督、コーチが4人集まれば4つの技術があるわけ。その中から自分のチームの性格に適した技術をマスターしていく。外国コーチの技術を日本のコーチ団が吸収する。話は別だが、日本サッカー協会が東京オリンピックに備えて西ドイツからクラーマー氏をコーチとして招き、西ドイツの技術を習得して大成功を収めた。外国のものをひとつでもいいから学びとる。もしチェコスロバキアからコーチが来日したら、チェコの技術を吸収してしまう。そうすることがヨーロッパの最強国のレベルに一歩近ずくことになる。これは夢ではない。

—この強化合宿では、選手をきびしく仕込むべきだと思うが…。

松本　監督、コーチは選手に遠慮してはいけない。きびしい合宿で鍛えることこそ、チームを強くすることである。(了)

チェコスロバキアの男子の試合から。

—ベルギー「体育レビュー」誌から—

必要な監督・チームの調和

ベドリッヒ・ケーニッヒ

ベドリッヒ・ケーニッヒ

〔筆者紹介〕 1953年から58年のチェコスロバキア・ナショナルチーム正選手（7人制世界選手権大会に2回，11人制大会に1回出場。このほか37試合の国際試合出場。スポーツ名誉博士。現在デュクラ・プラハ（チェコのチャンピオンチーム）監督，チェコスロバキア・ナショナル・第二チーム監督。

戦術練習

本稿で私は戦術練習の原則的な諸問題をとりまとめてみたい。なによりもまず現在のハンドボールはようやく技術—戦術上の最高の水準に到達している。その高水準はルーマニア、スウェーデン、チェコスロバキア、東西ドイツ各国のナショナルチームに代表されるとみてよい。しかしこれらチームの高水準は肉体的能力、ボールを保持する能力、正確で強力なシュートなど基礎的分野における能力の向上によってのみ到達されたものである。決して試合戦術の革命的変革によって得られたものではない。

戦術について語る場合、チームの活動はディフェンス局面からアタック局面へ中間に「ボール争奪」局面をおいて、交互に展開していくものであることを認識しておく必要がある。そしてこれら各局面はそれぞれゲームの具体的情勢にもとづき、一定のある行動を要求するものである。

現在のハンドボールはその情勢の多様性と局面の転換によって特徴づけられており、その結果いろいろの競技方式（システム）と協調プレー（コンビネーション）が生じている。この多様性と局面転換の故にチームをあらかじめ戦術上、一定の方式をとることとして準備しておくことは困難である。戦術上の準備とは相手のプレーをじゅうぶん知り、それを完全に消化し、正確に分析することを基礎としなければならない。したがって現実には試合中のコーチと戦術の問題は互いに入り組んでおり、理論的、技術的、体格的、精神的な準備の問題となる。戦術目的を実現するためにはいかなる場合でも、チームの全員があらゆる分野で完全に準備された状態でなければならない。別の競技構成を取った場合に対するじゅうぶんな事前準備がなければ、選手としてもチームとしても戦術上の要求を実現することはできない。

戦術的な行動を完成させるために必要な基本的要件は、一つには監督とチームの間の完全な調和である。それには肉体的能力水準が必要。それ故に選手が戦術練習にはいる前に、達成しておねばならない基礎的な能力基準を監督は明確にしておかねばならない。この能力規準は速さ、持久力、反応能力について具体的に示されねばならない。これら能力基準が達成されたあと、監督は個々の試合の戦術計画を決めることができる。個々の試合に対する戦術上の準備計画には次の点が含まれていなければならない。

口頭—図上—実践

(1) 相手のプレーに関する知識、既往の経験、最近の2～3試合の観察にもとづかねばならぬ。

(2) 採用する戦術プランの研究に当たってはチームとしておよび選手各人として果たさねばならない責任を示す。この責任はまず口頭で討議し、理論的に図上で示し、次に競技コートで実践する。

(3) 試合場の状況に対応する準備（競技コートの大きさ、観衆、大きすぎるボールなど）。

(4) 審判員の特別の性向。

(5) 選手との討論。これは選手が採用した戦術が正しく、かつ成功をもたらすものであることを納得するためにぜひ必要である。

(6) 当初の戦術プランがじゅうぶんな成功を収めない場合のため、一つまたは二つの違った戦術の準備。

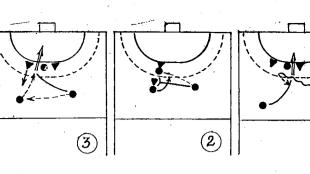
私自身の戦術コーチ実行上のいくつかの経験と意見を述べるに先だって、以下現在とられている攻撃システムおよび守備システムの概略を記すこととしたい。

A攻撃システム

「攻撃コンビネーション」という名でわれわれは2人または数人の攻撃選手がタイミングを合わせ、位置の連係をとりながら行なう相互の協力と理解している。このコンビネーションは準備のコンビネーションとシュートのコンビネーションに分けられる。準備コンビネーションにより相手守備の統一をかく乱し、シュートのコンビネーションにはいれるよう準備する。シュートのコンビネーショ

記号

○ ● 攻撃選手
△ ▲ 守備選手
ボールを持っている選手
パス
地上をころがすパス
ボールを持たない選手の進路
ドリブル
3歩移動
シュート
シュートのフェイント
攻撃2選手の位置の交代
マーク
マークする相手の転換

ンは準備のコンビネーションの延長であり、守備選手が最も手薄になったところで実施される。この準備のコンビネーションからシュートのコンビネーションへの移行は迅速に、かつ相手の意表をついて行なわれねばならない。コンビネーションの基礎となるのはクロス（図①）、ブロック（封鎖）（図②）、相手を引き寄せる（図③）である。

図①、クロスを基礎としたシュートのコンビネーション
図②、ブロックを基礎とした準備のコンビネーション
図③、相手を引き寄せることによるシュートのコンビネーション

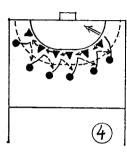
I 編成攻撃

（フォーメーション攻撃）

編成された攻撃とはチーム全体による攻撃活動のことで、それにより統制された相手守備を突破する。それぞれの攻撃システムでは各選手が果たさねばならない役割が明確に与えられる。

（1）一線攻撃システム（図④）

一線攻撃システムは最も基本的な攻撃システムである。これはシュートのフェイントで相手を引き寄せることを順番に繰り返して行き、最端の選手にシュートしやすいポジションを作ってやることを目的とする。

（2）ポスト1人システム（図⑤）

このシステムはゴールに背を向けポストにはいった選手が、ゴールに向かって進んできたシュートする選手にボールを配る役割を果たさせる方式である。ポストにはいった選手はマークをはずすため一切の努力を払わねばならない。また自分自身でシュートをねらってもよい。

（3）ピボ（軸）1人システム（図⑥）

ピボ選手の基本的な位置はゴールを背にしてエリア・ラインから10〜20cmのところである。味方から切り離されたこの位置で自分でシュートもできるが、また動き回ることにより相手を自分に引き寄せ、味方選手がシュートしやすい位置をとれるようにすることがこのシステムの目的である。この場合ジャンプシュートをしようとする選手のためのブロック（防壁）としての役割を果たすことも必要である。（図⑦）

（4）ピボ2人システム（図⑧）

このシステムでピボ2人はゴールポスト内、あるいはそれよりもう少し外側に位置する。1人のピボはポジションプレー（日本でポストプレーといっている）を行ない、シュートチャンスをねらう。もう1人のピボは他選手がマークをはずすのを容易にするよう動作をする。この2人のピボはお互いの責任を随時交代する。

（5）ピボ1人、ポスト1人システム（図⑨）

この場合、ピボとポストの協調が大切である。この2人は職能を交代し、守備に対応した新しい状況に立つこともできる。このシステムではポストがボールを配る役であり、ピボは攻撃動作を完成させる役である。

（6）即応方法

試合経過の60％から70％はこの即応方式がとられている。これはコンビのとれた2人または3人の選手の行動を基礎とし、練習や試合で何回も繰り返され、じゅうぶん研修されたコンビネーションにより形成されている。また各人の能力を認識したうえで両翼が中へはいりこんだり、ピボ選手が両翼へ出たりするなど役割を急に切り替える方法もある。いずれにしてもこの即応方式は長年の共同作業により、積み上げられた経験に基き長い間かかって作り出されるものである。

II 速攻反撃

速攻反撃とは一攻撃選手が守備選手より速くエリア・ラインに到達し、相手が守備陣を敷く前に行なう攻撃である。速攻反撃は現在では最も有効な攻撃手段である。というのはこの方法によれば容易

に得点でき、しかも大いに相手の士気を消沈させることができるからである。しかもこの速攻反撃の練習は戦術練習の中でも最も簡単で容易なものである。特に注意を要するのはサイド選手の適時の発進、ゴールキーパーの迅速なボール処理および正確なパスである。速攻反撃を実行するための重要な原則の第一はだれが反撃の始動をかけるか――シュートされた反対サイドの選手が始動すること、第二は同僚が始動選手の守備範囲を保証することである。

速攻反撃は相手のシュートを取ったゴールキーパーまたはゴール外へシュートされたボールを迅速かつ的確にとらえたゴールキーパーによっても開始することができる。あるいはシュートのカット、パスのカットなど守備行為を原因として初めることもできる。ある場合には唯1人の選手で（正確なパスを受けて）速攻反撃を完成することもあるが、多くの場合2人または3人で行なわれる。

図⑩、速攻反撃（右サイドのシュート、左サイドの発進）

B守備システム

守備は次に掲げる任務を遂行する選手各人の能力を基礎として成立する。

――ボールを持たない攻撃選手のマーク。
――ボールを持っている攻撃選手のマーク。
――与えられたゾーンの守備。
――ボールのカットと獲得。

守備活動はチームがボールを失った瞬間から始まる。それぞれの守備システムはいろいろのコンビネーション（つまり競技のある局面を打開するためとられる相互の協力を基礎とし、共通の目的を持った何人かの選手の協力作業）を利用することにより成り立っている。守備のコンビネーションの構成要素は

――守備相手の交換（図⑪）、
――割り込み（図⑫）、
――グループ・ブロック（防壁）、
――フリー・スローのホイスルが吹かれてから実施の間の守備コンビネーション

である。

守備相手の交換は守備活動を容易にするため利用される。最初の守備選手は隣の守備選手が攻撃選手をとらえるまでマークしていることが必要である。交換の完了はたとえば「チェンジ」「×番行くぞ」など声の合図をもって確認する。

割り込みは複合ディフェンス（ゾーン・ディフェンスとマン・ツー・マン・ディフェンスの複合という意味）を行なっているとき使われる。複合ディフェンスでは守備選手の1人が相手チームの最も危険なシュート選手または最も優秀な選手につく。攻撃側のその他の選手はそのマークされたシュート選手を自由にするため、マークしている守備選手をブロックしようとする。このブロッキングに対抗して割り込みが利用される。（図⑫参照）。攻撃選手1は攻撃選手2からパスを受ける。選手2は選手1をマークしている守備選手Aをブロックするため前進する。選手2をマークしていた守備選手Bは選手2について行く。選手Bは選手Aがブロックされようとしているのに気づいたとき、「ブロック注意」と声の合図をする。選手Aは警告をうけて少しさがり、自分をブロックしようとしている選手2と、選手2をマークしている選手Bの間に割り込む。こうすることによって選手Aは前進してくる攻撃選手1のマークを続行する。

グループ・ブロックとは2人または3人で作るブロックを指す。それも何人かの協同作業による守備のコンビネーションである。3人のブロックはフリースローに対する壁として利用される。攻撃選手のシュートを最も困難たらしめる場所に壁が作られる。壁を作った選手とゴールキーパーは相互の行動をよく知ってなければならない。

フリー・スローに対する守備のコンビネーションの場合、非常に接近した守備選手が作る壁により高度のコンビネーションが実行される。いかなる場合でも、グループ、ブロックを編成している各守備選手はブロックが終わったとき、どの攻撃選手をマークしなければならないかを知っていることが重要である。最も大切な動作はブロックを解くときの始動と即座の反応である。

⑪

⑫

I、ゾーン・ディフェンス

0―6ディフェンス（図⑬）

簡素さの故をもって、この守備システムは基本的なシステムを取ることができる。

利点

――習得するのが容易である。
――見通しがきき、速攻反撃に移りやすい。
――守備のために要する基本的動作が最少ですむ。
――技術、速度、コンビネーションのすぐれたチームに対しては効

果がある。しかし強力なシュート選手に弱い。

このシステムを実施するのに二つの方法がある。

—よくブロッキングのできる守備選手の場合は相手に接近しないこと。

—よくブロッキングのできる選手が少ない場合は相手に接近すること。

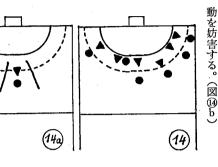
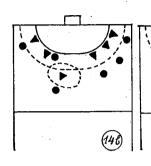
1—5ディフェンス

このシステムは相手チームが1人のすぐれたシュート選手を有する場合、あるいはエリア・ラインぎりぎりにいいシュート・ポジションを持っている場合に摘要される。

このシステムを実施するのに三つの方法がある。

—守備選手1人が特定の攻撃選手をボールを持っていようがいまいが、つねにマークすることに専念する（図⑭）。

—相手チームの最良のボール配り選手、または最強力シュート選手のいる場所を、前進した1人の守備選手がマークすることに専念する（図⑭a）。

—ある特定の場所へ前進した1人の守備選手が、ボールを持ってる攻撃選手をアタックして攻撃活動を妨害する。（図⑭b）

2—4ディフェンス（図⑮）

このシスムは相手選手の動きを監視するという大きな目的を持っている。

利点

—ディフェンス・ライン前方でのジャンプ・シュートまたはロング・シュートに効果がある。

—ピボ・システムの攻撃に対し、ピボ選手が守備陣をかく乱しないようマン・ツー・マン・ディフェンス（ピボ選手に対する）ができる。

—動きの少ないチームに対して、またセンターがボール配りをするコンビネーションを取っているチームや前記のピボ2人システムをとってるチームに対して効果がある。

—競技コートが小さいときに大きな効果がある。

欠点

—攻撃各選手が自分の回りにかなりの場所的余裕を持つことになる。

—守備選手は自分のことしか考えなくなる。

—速力のあるチーム、すぐれた技術のあるチーム、位置の転換とブロッキングのうまいチームに対しては非常に弱い。

3—3ディフェンス（図⑯）

このシステムはおおむね2—4ディフェンスと同じものである。かつてスカンジナビア諸国、特にスウェーデンで完全に行なわれていたこのシステムは、現在ではほとんど行なわれていない。たまに2—4または1—5システムへ移行するさいのポジションとしてとられることがある。

II 複合ディフェンス

（ゾーン・ディフェンスとマン・ツー・マン・ディフェンスの混合したディフェンス）

1—5複合ディフェンス

このシステムでは前進した守備選手1人が、相手チームの最良選手あるいは最強力シュート選手について個人ディフェンスを行なう。一方の守備選手はゾーン・ディフェンスを行なっている選手の行動は、次の戦術上の原則に従ったものでなければならない。

—マークしている攻撃選手の動きと位置に従って守備位置を変える。

—マークしている攻撃選手の進路に立って身体でするディフェンスを活発に利用する。

—他のディフェンスを助けたり、ボールを取ったりすることを考えてはならない。自分の主要で唯一の任務は指定された相手選手をマークすることである。

2—4複合ディフェンス

1—5複合ディフェンスの変形である。ただ相手の優秀2選手が個人的にマークされる。

5—1複合ディフェンス

このシステムは何人かの危険なシュート選手を有するチームに対して使われる守備的なプレーでの一方法である。この場合、中にはいっている攻撃側ピボ選手は個人的マークされておらねばならず、また守備選手の原則的位置は（両サイドを除く）ゴールから7〜8mのところになければならない（図⑰）。

IIIマン・ツー・マン・ディフェンス

これはいろいろむずかしい要件のある守備システムである。

──広い意味でのマン・ツー・マン・ディフェンス

──せまい意味でのマン・ツー・マン・ディフェンス

──プレッシング（押し返し）

これらマン・ツー・マン・ディフェンスは相手チームのプレー方法と守備突破能力に応じて監督が指示する。バスケットボールと違ってマン・ツー・マン・ディフェンスは次のような限られた場合にだけ使われる。

──攻撃位置を押し返そうとする場合。

──相手が競技の遅延を行なってる場合。

──相手が弱ってる場合（5人でプレーしてる場合）。

──練習のための対戦の場合

この守備方法の最大の欠点は守備選手1人のミスが90％得点につながる点である。このシステムをとるためには各選手の肉体的能力が大きく、戦術上の経験が多いことが要求される。弱体チームはこのシステムをとることができない

C 相手の観察、その方法と処理

どのスポーツにでもいえることであるが、近く対戦することになっている相手のプレーの観察はだんだん重要となってきた。観察に際して次の点に注意しなければならない。

──試合全体の進展経過および特色のある個々のプレー。

──どの選手が攻撃的で、どの選手が守備的か。個々の選手の動き、シュート、コンビネーションの特色。これら特色はゴールキーパーについても同じ。またゴールキーパーの色々の活動への参加状況も見る。各選手について強いサイドを確認し、また弱い点を明らかにする。

──監督の行動、反応、選手交代の方法。競技のいろいろの局面での監督の行動。

──審判。

観察結果の処理

最も現代的な記録方法としてフィルムの利用とテープレコーダーへの収録を併用する方法がある。フィルムは全体を図として示してくれるが、カメラの位置、距離、角度により少々立体的に変形されていることがある。一方テープレコーダーの記録はより真実に合致している。吹き込みをした説明者がじゅうぶん知識を持っている場合、60分にわたる相手のプレーの100％近くの解説記録とフィルムによる図録が得られる。収録しておかねばならないのは選手個人としての、あるいはチームとしての特色ある攻撃動作、守備動作およびシステムの変更、選手の交代、名選手のシュートの状況（だれがどこからどういう）などである。テープおよびフィルムに収録された内容を、その後各選手ごとに紙の上に再現して分析する。これによって非常に正確で真実な分析結果がえられることになる。記録をともなわない見るだけの観察もいいが、しかしその観察は不完全で不正確なものである。

よき経験はチーム全員で近く対戦する相手のプレーを観察し、研究した場合に得られる。この場合各選手に自分自身の相手を観察するよう責任を負わせることがよい。ゴールキーパーはつねに最も正確な観察者でなければならない。よい選手は近く対戦する相手を観察し、研究するためあらゆる機会を利用している。しかしながらこの観察結果にもとずき全選手が自己の最上を発揮し、すべての手段、ときには秘密兵器をも使うというような重大な決定を行なうのは重要試合のときだけである。

D 戦術計画に関する私の経験から

理論的な戦術計画は短期間にかつ実際に即して作られねばならない。完全ではあるが、相当前もって作られた戦術計画は困難な試合のさいなど、しばしばその実効が失われるものであることを強調したい。チームが固められるのは少くとも試合の1週間前である。そしてそれから理論的にも（説明と磁石板上の図解により）、実行面でも（練習における戦術の実行により）準備が行なわれる。

最終的な仕上げとしては基本的な点を手短かに確認するだけでじゅうぶんである。練習では相手になる者が、近く対戦するチームの基礎的な戦術を取ってやることが非常に役立つ。それに対して使おうと予定している戦術の基本的要素、その変形および使う予定の場合などを練習しておく。

ここに私自身の最近の経験を例として示すこととしたい。

1962年4月のヨーロッパ・カップ決勝戦デュクラ・プラハ対ディナモ・ブカレストのデュクラ・プラハチームの責任者として私はその準備を引き受けた。私はルーマニア選手をキールでの西ドイツ対ルーマニアの試合およびヨーロッパ・カップ準決勝戦ディナモ・ブカレスト対スコババッケン・アルハスで観察した。そして先に触れたように必要な細目一切を含めてテープレコーダーに試合経過を収録した。この記録から典型的で、重要で、決定的な諸要素を引き出した。そしてチーム全体でこの観察結果を研究し、戦術理論面での準備に活用した。

このような準備にかかわらず、決勝戦では前半5─10とリードされた。この予期してなかったスコアはわが方の中心的選手のいくつかの重大なミスによるものであったが、それをわれわれは当然ではあるが予想してなかった。試合を逆転したのは後半にはいってからである。デュクラの選手は攻撃面でも守備面でも完全に自己の任務を果たしはじめた。後半7分のスコアは7─13であったが、後半終了時には13─13となった。そして延長のあと15─13でデュクラは勝利を得た。

ここで大切なことは、相手選手全員が疲労の影響をうけて型にはまったプレーになり、わが選手がその型にはまったプレーをよく知

っていたことである。後半33分以後デュクラのゴールキーパーのビッチャはルーマニア選手のシュートの特徴をよく知っていたので、1点も許さなかった。わが方の守備を目的とした選手デュダはルーマニアの危険なシュート選手ナトのシュート17本をつぶした。これはナトのシュート方法を研究し、この選手のシュートの90%は守備選手の前で、半分腰を浮かせる倒れ込みシュートであることをよく知っていたからである。

パリでのこの決勝戦の間にデュクラは4回守備システムを変えた。スコアが14—13になったとき、相手はマン・ツー・マン・ディフェンスを行なっていた。わが方はゴールキーパーを7人目の攻撃選手として活用するシステムを完全に実施した。デュクラはこのシステム変更に対しじゅうぶん準備されており、ゴールキーパーのビッチャは100%自己の任務を果たした。ビッチャは7人目の攻撃選手として攻撃に参加し、ゴール正面のシュート位置を占めた。そこで荒いアタックを受けた。そして7mスローを得、15点目の得点をあげた。これによりデュクラの勝利が決定的なものとなった。このシステム変更が事前に準備されたため、このようなことが可能であったことを強調したい。前もってのこの準備がなかったなら、われわれは決してこのような危険をあえておかさなかったであろう。

もう一つ準備が成果をもたらした例がある。東ドイツ対ルーマニア戦およびソ連対ルーマニア戦の録音からルーマニアのゴールキーパー、レドルはゴール下半身へのシュートに弱いことがわかった。チェコスロバキアの選手デュダはこのことを利用して、いつも下半身へのシュートを放ち、レドルから6点を得点した。

選手交代の問題についても監督はよく研究しなければならない。ハンドボール競技では戦術上に適応した選手交代により、監督は試合の展開に大きな影響を与えることができる。交代者ベンチの監督のおかげで勝利に導かれた対戦例は数多い。選手の交代について私は次のとおりの基準を持っている。

選手を代えた方が適当な場合

——選手が疲労したとき。

——選手が目的を達しないとき。

——戦術の変更によりその選手が適さなくなったとき。

——特殊な役割の選手である場合(たとえば7mスロー選手あるいは攻撃活動、守備活動である限られた役割を果たすだけの選手)、

——選手が傷ついたとき。

——スポーツ精神に反する行動、または礼儀正しくない態度をとったとき。

しかしながら1964年プラハでの第5回世界選手権大会での選手交代についてみると、選手交代に関する監督の役割はだんだん容易になってきていることがわかる。というのはその記録から明らかなように優秀チームは重要な試合の対戦中はどうしても必要な場合しか選手を代えなかった。またこれらチームの優秀選手はどんな局面に対しても適応できるようよく訓練されており、25分から30分の間交代させる必要がなかった。しかもその間全然調子を落とすことはなかった。このような選手としてはモーゼル、ルブキン、ハンセン、マレシュ、ハブリック、レベデブ、マチェジンスカなどを例としてあげられる。

以上述べてきた私の経験からいくつかの結論を示そう。

——どの守備システムにしても攻撃システムにしても、結果的によければよいものであることを知らねばならない。どのシステムが最良で、必ず勝利をもたらすものであるかを断定することはできない。

——攻撃側はじゅうぶんかつ慎重にプレーしているかぎり、守備システムがなんであるか配慮する必要はない。たとえば相手が3—3守備システムをとっているとき、われわれがサイド2人、中へはいり込むピボ2人、後方に強力シュート選手2人という配置を行なったならば、守備側は即座に2—4システムに守備システムを変更せざるをえない。同様に2—4ディフェンスに対しサイド2人、ピボ1人、シュート選手3人を配置した場合も守備システムは変更を強いられることになる。

——守備選手は原則としてシュート選手の利き腕の側に位置しなければならない。というのは狂った姿勢でシュートできる選手はまれであるから、シュートできる利き腕側に位置することにより守備はより有効となり、ゴールキーパーの助けになる。

——心理的な観点から新しい方法は、まず勝敗があまり重要でない練習試合、予備試合、親善試合で試みておくことが望ましい。

——計画をたて練習の密度を試合に対し150%にまで高めて行くようにしなければならない。最終的に対戦チームを固める時期に練習が最好調に達するよう進めて行けばよい。選手にとって本番の試合が、練習と比較して快的な変形にすぎないようにするためにも、この時期の練習の負担は試合より重いものでなければならない。戦術計画が決ったとき、相手チームのプレーに関する観察材料を、新聞から得られた細かい諸事実も含めて、最大限に活用する。(訳、境井秀三)

国際審判員講習会

国際ハンドボール連盟主催の第14回国際審判員講習会は7月17日から22日までユーゴのピラノで開かれた。22カ国の代表が参加、共産国で開かれた関係から東欧諸国の参加が目だった。前回不参のハンガリー、ソ連、ルーマニアが参加した。

今回も国際ハンドボール連盟技術委員長・エミール・ホルル氏、技術委員・イオン・クンスト氏、ルネ・リキャール氏などが講師となり、技術面、審判の心得、国際連盟のルール解釈の諸問題を討議した。

連載第16回

ハンドボール球史

―― 女子・九州勢が進出 ――

記念すべき10周年大会は湘南の松林に囲まれた平塚で行なわれた。高校男女の決勝がともに延長戦にもつれ込んだのをはじめ、3点差以内で決まった試合が27試合もあり、エキサイトした好試合が続いた。

競技面では桜台（男）と明善（女）がともに全国高校選手権（第6回・東京）に続いて優勝、ダブル・クラウンを飾った。また、第1回いらい、つねはタイトルを持ち帰り、第2回大会では完全優勝を記録した大阪が初めて優勝を逸した。

一般女子で日体大が9年ぶりに東京代表として出場、3位となった。女子学生の公式試合がなかった当時としては、日体大にとってこの大会は最高目標であり、以後第13回大会（昭33・富山）を除いて毎年出場することになる。なお第10回大会の出場人員は644人。

【第10回国体・昭和30年10月31日〜11月3日・神奈川県平塚市】

▼高校男子1回戦
下松工（山口） 13−11 盛岡一（岩手）
金沢市工（石川） 11−7 鎌倉学園（神奈川）
▽同準々決勝
下松工 8−7 豊中（大阪）
新居浜工（愛媛） 10−7 明星（東京）
桜台（愛知） 5−4 函館中部（北海道）
小倉工（福岡） 9−6 金沢市工
▽同準決勝
下松工 9−5 新居浜工
桜台 13−7 小倉工
▽同3位決定戦
新居浜工 11−5 小倉工
▽同決勝
桜台 14（7−5、2−4、……、2−3、3−1）13 下松工

桜台の優勝は2年ぶり4回目。愛知代表の優勝も2年ぶり4回目。

▼高校女子1回戦
函館中部（北海道） 4−3 今治西（愛媛）
涌谷（宮城） 11−0 羽咋（石川）
▽同準々決勝
静岡城北（静岡） 8−4 函館中部
水海道二（茨城） 7−4 倉敷青陵（岡山）
寝屋川（大阪） 7−3 平塚江南（神奈川）
明善（福岡） 11−2 涌谷
▽同準決勝
静岡城北 7−6 水海道二
明善 5−4 寝屋川
▽同3位決定戦
寝屋川 6−4 水海道二
▽同決勝
明善 6（2−2、2−2、……、0−1、2−0）5 静岡城北

明善高は初優勝。福岡代表の優勝も初めて。

▼一般男子1回戦
山口ク（山口） 14−13 東京ク（東京）
全静岡（静岡） 22−16 白亜ク（岩手）
全兵庫（兵庫） 11−10 浅陽ク（長野）
足利ク（栃木） 13−11 福岡日体大ク（福岡）
北嶺ク（富山） 12−9 橘ク（滋賀）
大阪ク（大阪） 13−8 済々黌OB（熊本）
サンダース（北海道） 15−4 新居浜ク（愛媛）
桜丘会（愛知） 15−11 全神奈川（神奈川）
▽同準々決勝
山口ク 18−11 全静岡
足利ク 12−11 全兵庫
サンダース 8−7 大阪ク
桜丘会 19−9 北嶺ク
▽同準決勝
山口ク 13−7 足利ク
桜丘会 14−9 サンダース
▽同3位決定戦
サンダース 18−12 足利ク
▽同決勝
山口ク 14（7−4、7−6）10 桜丘会

山口クは初優勝。山口代表の優勝も初めて。

▼一般女子1回戦
熊本ク（熊本） 8−5 山口OGク（山口）
北星ク（北海道） 18−1 福島ク（福島）
▽同準々決勝
大阪ク（大阪） 9−4 熊本ク
平塚江南ク（神奈川） 5−1 八尾ク（富山）
日体大（東京） 9−5 今治ク（愛媛）
稲沢ク（愛知） 6−5 北星ク
▽同準決勝
大阪ク 10−1 平塚江南ク
稲沢ク 6−4 日体大
▽同3位決定戦
日体大 8−5 平塚江南ク
▽同決勝
稲沢ク 6（2−1、4−1）2 大阪ク

稲沢クは初優勝。愛知代表の優勝も初めて。

▼天皇杯（男子）①愛知②山口③福岡④大阪⑤静岡⑥北海道
▼皇后杯（女子）①福岡②愛知③大阪④静岡⑤東京⑥神奈川

女子11人制、最後の大会

11年目を迎えた国体は兵庫県下

で開かれた。兵庫県で国体ハンドボールが行なわれるのは第1回(西宮)に次いで2回目。当時に比べればすべての点で充実。714人の選手が参加し、5日間に延一万九千の観衆が詰めかけた。

競技面は女子2種目を九州勢が制し、一方男子でも桜台高の現役とOBが高校、一般部門にそれぞれ優勝という快挙をやってのけた。大阪勢はこの大会でもタイトルをとれず、2年続けて無冠に終わった。

また記憶されなければならないのは、この大会が日本における女子11人制の最後の全国大会になったことだ。

【第11回国体・昭和13年10月28日〜11月1日・兵庫県加古川市】

▼高校男子1回戦

函館工(北海道) 11—10 新居浜工(愛媛)
兵庫工(兵庫) 10—8 桐生工(群馬)

▽同準々決勝

函館工 8—4 盛岡一(岩手)
豊中(大阪) 10—5 津山(岡山)
桜台(愛知) 21—3 金沢市工(石川)
小倉工(福岡) 10—8 兵庫工

▽同準決勝

豊中 9—7 函館工
桜台 11—3 小倉工

▽同3位決定戦

小倉工 8—7 函館工

▽同決勝

桜台 12(7—5, 5—6)11 豊中

桜台は2年連続5回目。愛知代表の優勝も2年連続、5回目。

▼高校女子1回戦

寝屋川(大阪) 10—8 涌谷(宮城)
尼崎(兵庫) 7—5 羽咋(石川)

▽同準々決勝

寝屋川 5—2 徳山(山口)
熊本市立(熊本) 6—4 函館中部(北海道)
稲沢(愛知) 6—0 今治西(愛媛)
尼崎 4—2 水海道二(茨城)

▽同準決勝

熊本市立 5—4 寝屋川
稲沢 6—3 尼崎

▽同3位決定戦

寝屋川 8—3 尼崎

▽同決勝

熊本市立 4(0—2, 3—1, 1—0)3 稲沢

熊本市立は初優勝。熊本代表の優勝も初めて。

▼一般男子1回戦

清商OB(静岡) 18—13 仙台高OB(宮城)
済々黌OB(熊本) 12—10 桐生ク(群馬)
新居浜ク(愛媛) 14—12 京都ク(京都)

▽同2回戦

清商OB 20—4 全茨城(茨城)
大阪ク(大阪) 14—10 小松ク(石川)
福岡ク(福岡) 13—12 全兵庫(兵庫)
山口ク(山口) 23—11 鎌倉学園OB(神奈川)
東京ク(東京) 26—9 新居浜ク
函館ク(北海道) 16—10 富山ク(富山)
天城高OB(岡山) 17—11 白亜ク(岩手)
桜台ク(愛知) 26—8 済々黌OB

▽同準々決勝

大阪ク 23—8 清商OB
山口ク 13—10 福岡ク
東京ク 12—6 函館ク
桜台ク 13—8 天城高OB

▽同準決勝

山口ク 15—9 大阪ク
桜台ク 13—10 東京ク

▽同3位決定戦

大阪ク 17—12 東京ク

▽同決勝

桜台ク 13(2—4, 11—4)8 山口ク

桜台クは初優勝。愛知代表の優勝も初めて。(注・桜台クはこの大会以外はすべて桜丘会として活躍。この大会だけ桜台クを名乗った事情は不明)

▼一般女子1回戦

北星ク(北海道) 10—3 倉敷青陵ク(岡山)
全兵庫ク(兵庫) 不戦勝 高岡ク(富山)
静岡城北OG(静岡) 6—5 日体大(東京)
涌谷OG(宮城) 9—2 佐川ク(高知)

▽同準々決勝

北星ク 12—11 梨窓ク(山梨)
全兵庫ク 12—4 那賀高OG(和歌山)
大阪ク(大阪) 7—6 静岡城北OG
明善ク(福岡) 7—5 涌谷OG

▽同準決勝

北星ク 6—1 全兵庫ク
明善ク 7—3 大阪ク

▽同3位決定戦

大阪ク 7—7 全兵庫ク

両チーム3位。

▽同決勝

明善ク 4(2—2, 2—0)2 北星ク

明善クは初優勝。福岡代表の優勝も初めて。

▼天皇杯(男子)①愛知②福岡③熊本④大阪⑤北海道⑥山口

▼皇后杯(女子)①福岡②熊本③北海道④愛知⑤大阪⑥兵庫

第4回国体(22号)の補そく

ところでこの球史は、協会の記録整備を補うためと愛好家のために連載しているものです。古い記録の整理はたいへん困難で、原稿そのものも必ずしもじゅうぶんとはいえません。読者諸兄姉のご教示を切望する次第です。22号の第4回国体(昭24・東京)で不明の部分のうち、最近次の各スコアがわかりましたので補充します。これで同大会の一般男女はそろったわけです。

なお高校男子準々決勝は天王寺(大阪)12—1函館(北海道)がわかっただけ。また同女子は1回戦小豆島(香川)5—4涌谷(宮城)、準々決勝の小松(石川)2—2函館女(北海道)で抽選の結果、小松が勝ち進んだことがわかりました。岡山一女と平塚女(神奈川)の勝った試合記録は依然わかりません。(杉山)

▽一般男子1回戦(準々決勝)記録

岡崎ク 5—4 山口ク
東京ク(東京) 14—2 香川桜ク(香川)
熊本ク(熊本) 11—1 仙台ク(宮城)
大阪ク(大阪) 7—0 全新潟(新潟)

▽一般女子1回戦記録

大阪ク 5—0 熊本ク

〔注〕参加5チームのため右の1試合だけ。

× × ×

地方だより

京大、貫録を示す

第9回国立大学ハンドボール選手権大会は7月22日から3日間、大阪に全国8大学が参加して開かれた。この結果、関西学生春の優勝校京大が神大の善戦にあって引き分けた以外は全勝、第5回（昭37）いらい4連勝、通算7回目の優勝を飾った。

〔最終順位〕

①京大②阪大③東大④神大⑤名大⑤東北大⑦北大⑧九州大

なお、この大会は第4回国立7大学（前記8校から神大を除く）総合体育大会のハンドボール競技の一環として行なわれ、京大は4連勝したことになる。

横浜市が2連勝

第16回五大都市（横浜、名古屋京都、大阪、神戸）体育大会ハンドボール競技は7月17、18日神戸市で行なわれ、敗者復活戦で浮かび上がった横浜市が2年連続、2回目の優勝を飾った。

名古屋市 17—13 横浜市
大阪市 18—13 京都市

▽敗者復活戦
横浜市 29—13 京都市

▽準決勝
大阪市 21—14 名古屋市
横浜市 16—14 神戸市

▽決勝
横浜市 21—16 大阪市

常盤工業、国体候補に

国体開催地岐阜県の代表（一般）を決める予備大会は7月18日大垣市で行なわれた。男女とも実業団による争いとなったが、男子は常盤工業が候補チーム、美津濃が強化（準候補）チームに、女子は揖斐川電工が候補チームに決まった。

▽男子1次戦
美津濃 42—2 日本耐酸壜

▽同2次戦
常盤工業 26—10 美津濃

▽女子
揖斐川電工 棄権 近江絹糸

富山大、金沢大を破る

第17回北陸3大学対抗のハンドボール競技は7月11日金沢市で富山大と金沢大の間で行なわれ、29—16で富山大が勝った。

女子実業団と学生の対抗

年3回の実業団リーグ開催など活溌な動きを見せる愛知県実業団連盟は、女子チームの普及のために東海学連とタイアップして今秋から「社会人・学生対抗リーグ」を計画している。現在のところ愛知紡績、中京大、中京女大の3チームの参加が内定している。このほか高校OGによる社会人選抜チーム（有志）を編成して、4チームによるリーグ戦にしたい意向である。全国大会とその予選会以外ほとんど公式試合のない女子チームにとって同連盟のこの企画は期待される。

明星（男）、栃木女優勝

◇第11回関東高校選手権大会（7月22日—25日、足利市）

「男子」

▽準々決勝
明星（東京） 12—7 浦和市立（埼玉）
中大付（東京） 9—6 関東学院（神奈川）
関東（東京） 13—10 塩山商（山梨）
麻生（茨城） 14—7 神代（東京）

▽準決勝
明星 16—6 中大付
麻生 20—18 関東

▽3位決定戦
中大付 20—6 関東

▽決勝
明星 16（9—6、7—5）11 麻生

「女子」

▽準々決勝
栃木女（栃木） 5—0 桜水商（東京）
平塚江南（神奈川） 17—11 笠間（茨城）
麻生（茨城） 12—7 桐生女（群馬）
水海道二（茨城） 15—5 熊谷商工（埼玉）

▽準決勝
栃木女 11—3 平塚江南
水海道二 17—5 麻生

▽3位決定戦
麻生 8—8 平塚江南 引き分け

▽決勝
栃木女 10（3—3、7—1）4 水海道城

東海学生女子が発足

東海学生連盟は今秋のリーグ戦から中京大、中京女大（以上愛知）、松阪女大（三重）の3校によって女子リーグを発足させることになった。学生女子のリーグは関東学連に次いで全国で2番目。

東海で実業団大会開く

東海実業団選手権大会は9月19、26の両日、名古屋の愛知県体育館で開かれる。男子は愛知8、岐阜1、三重2、静岡1の計12チーム。女子は（愛知）、田村紡（三重）、揖斐川電工（岐阜）の3チーム。

◎大阪府協会長に野原氏

大阪府ハンドボール協会はこのほど辞任した馬場太郎氏の後任に野原博氏（野原林業株式会社社長）を選出した。なお馬場会長は名誉会長となった。

× × ×

東京都協会告知板

東京都ハンドボール協会の登録チーム次のとおり。（カッコ内は責任者）

▽一般男子

安田生命（田口敬蔵）若木クラブ（村田稔）大崎電気（生田太）明正クラブ（柴誠一郎）法友クラブ（安藤純光）早大学院OBクラブ（大橋淳男）芝浦クラブ（住広尚三）城南クラブ（岡本忍）滴水会（中沢重夫）全立大（浜田猪三郎）自衛隊市ヶ谷第32普通科連隊（三谷賢治）日体大クラブ（荒川清美）千代田印刷機（古賀健一郎）

▽一般女子

大崎電気（生田太）東京重機工業（斎藤健）レナウン工業（塩川安賢）三菱鉛筆（大川義幸）

▽教員男子

桜友会（田中稔）

▽大学男子

国士館大（平間光雄）上智大（浮間剛）中大（田中秀夫）教大（宇土正彦）慶大（大久保静男）明大（山本雄一）東大（藤本強）法大（安藤純光）東京学芸大（矢野久英）日大（的場益雄）武蔵工大（難波俊夫）理科大（高橋俊雄）芝浦工大（中沢重夫）立大（勝繁夫）日体大（荒川清美）早大（萩原一次）

▽大学女子

日本女子体大（大杉淳子）東京女子体大（和泉真男）日体大（荒川清美）

▽高校男子

都鷺宮（杉浦章郎）都江東商（中村正義）都桜水商（渡辺慶寿）都羽田工（小泉恭平）都城南（若林義孝）都京橋商（大石正己）都明正（崎山朝儀）都玉川（岡村昭二）世田谷工（徳永陸繁）東京学芸大付属（新津金弥）都広尾（南一好）都一商（杉村一雄）都四谷商（郷原義久）都赤羽商（高田日呂美）都両国（永井勝雄）都墨田川（松本重雄）都三商（伊藤政貞）都小岩（上川高央）都二商（新村正雄）都北多摩（島田正士）都府中（久田暁）都農業（由良和雄）都神代（大塚文雄）都府中工（山口久夫）都五商（岡前義春）都国立（稲垣雅彦）東亜商（緑川貞男）東京実業（田中保弘）早大高等学院（萩原一次）明星（高橋英次）帝京商工（真坂侃）中大付（川上堅司）関東（新井武）駿台学園（岩井辰太郎）芝浦工大付（松村憲一）

▽高校女子

都化工（渡辺和男）都明正（崎山朝儀）都玉川（大内一美）都園芸（小柴実）都広尾（南一好）都桜水商（渡辺慶寿）都五商（岡前義春）都四谷商（郷原義久）都井草（天野敏雄）都志村（石塚惇子）都両国（永井勝雄）都墨田川（松本重雄）都白鴎（星野賢造）都小岩（城津寛二郎）都二商（新村正雄）都北多摩（島田正士）都府中（久田睦）都神代（大塚文雄）都小平（岡村千春）菊華（内倉正弘）小野学園（阿部武敏）　佼成学園（高島幸雄）二階堂（大杉淳子）

東京都の競技日程

▽第3回東京都選手権大会は11月18日から21日まで東京体育館で開く。

▽東日本学生選手権大会は11月14日駒沢で開く。

▽全日本学生選座決定戦は11月23日駒沢屋内体育館で開く。

▽全日本総合室内選手権大会は12月14日から19日まで東京体育館、駒沢屋内球技場で開く。

▽東京都中学新人戦は11月上旬から中旬にかけて開く（場所未定）

▽東京都高校秋季リーグは11月7、13、14日、神代高または桜水商で開く。

× × ×

編集後記

○…熊本市で開かれたインターハイは沖縄代表が初めて参加。土佐高、都城泉ヶ丘高を破って3回戦に進出したのには感心した。球歴は浅くてもファイトでぶつかれば、道はおのずから開かれる。他のチームはこれをよい教訓にしてほしい。それにしても男子の桜台高、女子の静岡城北高がまたもタイトルを握った。監督の好指導、選手の素質もあろうが、とにかく優勝することはむずかしい。

○…8月下旬の全日本総合選手権大会の女子は予選トーナメント、決勝リーグを行なうことになった。これは10月の世界選手権大会の日本代表候補選手を選ぶため。すばらしいゲームが展開されよう。

○…1967年の男子7人制世界選手権大会について松本常務理事からいろいろきいてみた。松本君の構想はすばらしい。

○…月刊となったため、編集子は夏休みを返上して大車輪。いそがしくて海、山なんて考えている暇がない。校正が終わったとたんに次号の原稿に赤筆を入れる。原稿を集めるに出かける。催足の電話をする…。そんな毎日で、夏休みがあっという間に過ぎてしまった（ふぐ）

都道府県協会一覧表

昭和40年8月31日現在

	会長名	協会所在地	TEL
北海道	小坂幸一	函館市東雲町9　函館市教育委員会内	3—0864
青森	鹿内一胤	青森市浪打100　県立青森商業高校	2—2625 7509
秋田	武田兼治	秋田市手形中野台1　県立秋田高校内	2—2969 3—0231
岩手	菊地慶一郎	盛岡市上名須川　市立仁王小学校内	
宮城	松川金七	仙台市川内　東北大学教養学部体育研究室	23—1181
山形	市村利兵衛	東根市大字東根177　県立東根工業高校内	東根　149
福島	三瓶勝治	郡山市方八丁32　熊田栄一気付	呼2—2056
群馬	岸　篤三	富岡市七日市1500　県立富岡高校内	富岡　53
栃木	長竹寅治	足利市本城1—1629　県立利足高校内	2—4573
茨城	染谷秋之助	水戸市渡里町　茨城大学体育研究室内	2—4171
埼玉	藤間英一	浦和市元町1—255　浦和市立高校内	31—3567 2395
千葉	山本力蔵	千葉市弥生町1　千葉大学文理学部体育科内	2—9326
東京	渡辺和美	東京都品川区五反田1—263　大崎電気工業KK内	441—2110
神奈川	保坂周助	横浜市南区三春台4　関東学院気付	23—0234 0305
山梨	米山　泉	山梨県東八代郡石和町中川　県立山梨園芸高校内	石和　130
新潟	近藤禄郎	柏崎市本町5　佐渡五旅館気付	柏崎　2325
長野	鈴木　俊	上田市新参町　上田市教育委員会社会教育課	2—4100
静岡	斎藤敏之	清水市入江岡975　清水市立商業高校内	2—7330～1
岐阜	山内清次	岐阜市加納南陽町　加納高校内	3—0431 3—4418
愛知	小杉仁造	愛知県知多郡横須賀町　県立横須賀高校内	48—2226
福井	伊藤仁和	福井市御幸町2—1　高志高校内	2—1222 2—1282
石川	油谷外郷	金沢市田井町　兼六中学校気付	21—1521
富山	高田義一	富山県小矢部市新西　富山県販購連養鶏センター	津沢　331
三重	田村正衛	三重県津市刑部　県立津高校内	
滋賀	嶋田栄一	彦根市金亀町　彦根東高校内	
京都	木下弥三郎	京都市北区紫野下御輿町12—1　岩本定男気付	45—9894
奈良	堀内俊夫	奈良市高樋町498　森田正英気付	
和歌山	中村常夫	和歌山県那賀郡岩出町高塚　県立那賀高校内	岩出　2117
大阪	野原　博	大阪市阿倍野区昭和町　阿倍野中学校内	
兵庫	山本義政	明石市大蔵町8—3425　増岡茂義気付	91—2220 6427
岡山	村山　寛	岡山県真庭郡落合町　県立落合高校内	
広島	川上正幸	呉市広町大新開　広高校内山	6—3782
山口	近間忠一	山口市清水　県立体育館内	
島根	青山善平	松江市母衣町181　松江市立女子高校内	
鳥取	安田光昭	境港市上道町1600　境港市役所内	2111
香川	森　住雄	高松市桜町2丁目5—10　高松第1高校内	3—3853 9515
愛媛	梶浦瞳一	松山市大字石平509—2　越智武方	
高知	山下市平	高知市鴨部668　県立高知西高校内	
福岡	岡野正実	福岡市香椎町　県立香椎高校	68—0009
大分	中尾節次	大分県東国東郡国東町　県立国東高校内	国東　27 40
長崎	田中丸善一郎	佐世保市高砂町　佐世保市教育委員会内	
宮崎	帆足久喜	都城市妻ケ丘町第27街区第15号　都城泉ケ丘高校内	
熊本	佐々木克巳	熊本市黒髪町坪井　済々黌高校内	64—1773 6301
鹿児島	増田　静	鹿児島市草牟田町3918　鹿児島工業高校内	2—9205

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第二十五号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十年八月二十日印刷 昭和四十年八月二十五日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京 区神南町二五
電話(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 高嶋冽
定価百三十円(〒二十円)